埼玉県深谷市埋蔵文化財発掘調査報告書　第106集

熊　野　遺　跡　Ⅷ

2009.3

深谷市教育委員会

埼玉県深谷市埋蔵文化財発掘調査報告書　第106集

熊野遺跡 Ⅷ

2009.3

深谷市教育委員会

1号井戸跡出土緑釉段皿

序

埼玉県北部に位置する深谷市は、古代には武蔵国に属し、幡羅郡・榛沢郡・男衾郡の３郡にまたがっていたと考えられております。

平成３年には、榛沢郡の郡家正倉跡と推定される総柱建物群が発掘調査により発見され、「中宿古代倉庫跡」として県指定史跡となりました。その南方に展開するのが、今回報告する熊野遺跡です。

本報告書は、集合住宅建設に先立ち平成16年度に実施した発掘調査の成果をまとめたものです。役人が使用したと思われる帯金具や、当時としては大変貴重な緑釉陶器の皿などが出土し、遺跡の性格を解明する上で重要な資料を得ることができました。

本書が学術・研究関係はもとより、文化財保護に対する啓蒙・普及を図る資料として広く活用いただければ幸いです。

結びに、発掘調査から報告書作成まで、多大なるご理解とご協力を賜りました関係各位・諸機関に心より御礼申し上げます。

平成21年３月

深谷市教育委員会

教育長　　猪　野　幸　男

例　　言

1．本書は、埼玉県深谷市岡に所在する熊野遺跡の、平成16年に実施した第161次調査の成果をまとめたものである。

2．文化財保護法第57条の３第１項にもとづく事業者あての指示通知は、次の通りである。
　　平成16年９月29日付　教文第３－384号

3．文化財保護法第57条第１項にもとづく発掘調査の通知は、次の通りである。
　　平成16年10月21日付　教文第２－36号

4．発掘調査は、宮本直樹が担当し、平成16年９月７日から同年10月８日にかけて行った。

5．出土品の整理及び図版作成は、宮本直樹と竹野谷俊夫が行った。

6．本書の執筆は、宮本直樹が担当した。

7．本書に掲載した資料は、深谷市教育委員会が保管している。

凡　　例

1．発掘調査位置図は岡部町都市計画図（1/2,500及び1/10,000）を、遺跡分布図は国土地理院発行『本庄』（1/25,000）を使用した。

2．遺構実測図は、現場では基本的に1/20、カマド実測図を1/10とし、本書掲載の段階で1/60及び1/30とした。遺物については、基本的に1/3で掲載した。

3．遺物観察表の数値に（　）のあるものは推定値、《　》のあるものは残存値を示す。

目　　次

序

例言・凡例

Ⅰ　発掘調査に至るまでの経緯 …… 1
　1．発掘調査の経緯 …… 1
　2．発掘調査・整理・報告書刊行の組織 …… 1

Ⅱ　遺跡の地理・歴史的環境 …… 3
　1．地理的環境 …… 3
　2．歴史的環境 …… 3

Ⅲ　発見された遺構と遺物 …… 6

Ⅳ　発掘調査のまとめ …… 43

挿 図 目 次

第１図　熊野遺跡の範囲と調査地点……２
第２図　熊野遺跡161次調査地点位置図 ……２
第３図　周辺の遺跡分布……５
第４図　熊野遺跡161次調査全測図 ……７
第５図　１号住居跡実測図……８
第６図　１号住居跡出土遺物実測図……８
第７図　２号住居跡実測図……９
第８図　２号住居跡カマド実測図……９
第９図　２号住居跡出土遺物実測図……10
第10図　３・４号住居跡実測図……12
第11図　３号住居跡カマド実測図……12
第12図　３号住居跡出土遺物実測図……13
第13図　４号住居跡出土遺物実測図……14
第14図　５号住居跡実測図……15
第15図　５号住居跡カマド実測図……15
第16図　５号住居跡遺物分布状況図……16
第17図　５号住居跡出土遺物実測図(1)……17
第18図　５号住居跡出土遺物実測図(2)……18
第19図　５号住居跡出土遺物実測図(3)……19
第20図　５号住居跡出土遺物実測図(4)……20
第21図　７号住居跡実測図……23
第22図　７号住居跡カマド実測図……23
第23図　７号住居跡出土遺物実測図……24
第24図　８号住居跡実測図……25
第25図　８号住居跡出土遺物実測図……25
第26図　１号掘立柱建物跡実測図……26
第27図　１号掘立柱建物跡出土遺物実測図……27
第28図　１号井戸跡実測図……27
第29図　１号井戸跡遺物分布状況図……28
第30図　１号井戸跡遺物垂直分布図……28
第31図　１号井戸跡出土遺物実測図(1)……29
第32図　１号井戸跡出土遺物実測図(2)……30
第33図　１号井戸跡出土遺物実測図(3)……31
第34図　１号井戸跡出土遺物実測図(4)……32
第35図　１号井戸跡出土遺物実測図(5)……33
第36図　２号井戸跡実測図……35
第37図　２号井戸跡出土遺物実測図……36
第38図　１号特殊遺構実測図……37
第39図　１号特殊遺構出土遺物実測図……38
第40図　１号溝跡及び出土遺物実測図……39
第41図　１～９号土坑実測図……41
第42図　土坑出土遺物実測図……42
第43図　熊野遺跡161次調査区周辺遺構図(1) ……44
第44図　熊野遺跡161次調査区周辺遺構図(2) ……45

写真図版

１　熊野遺跡161次全景、１～４号住居跡
２　３～７号住居跡
３　１号掘立柱建物跡、１～２号井戸跡、１号溝、１号特殊遺構
４　２～５号住居跡出土遺物
５　５号住居跡出土遺物
６　５号住居跡・７号住居跡・１号井戸跡出土遺物
７　１～２号井戸跡・１号溝・１号特殊遺構出土遺物

Ⅰ　発掘調査に至るまでの経緯

1．発掘調査の経緯

埼玉県北部に位置する深谷市は、埋蔵文化財の宝庫として古くから知られてきた。なかでも、縄文時代草創期の土器を出土した西谷遺跡を筆頭に、弥生時代の上敷免遺跡、鹿島古墳群・黒田古墳群、郡衙正倉跡と想定される中宿遺跡など、各時代を通して著名な遺跡が多い。さらに畠山重忠をはじめ多くの武蔵武士が活躍した地域でもある。

熊野遺跡（県登録番号№63-017）は、JR岡部駅のすぐ北西に立地し、県道蛭川普済寺線と国道17号線に挟まれた範囲である。東西約1,300m、南北約1,000mを測る、市内でも大規模な遺跡である。かつては、駅から少し離れると畑地が多く残っていたが、平成元年に『岡中央土地区画整理事業』が立ち上がり、景観が大きく様変わりした。

この区画整理事業に先立つ発掘調査は、平成４年度から実施され、道路建設や個人住宅の移転などに伴う調査件数が急増した。熊野遺跡における発掘調査は、現在までに163次に及ぶ。また、この区画整理事業地内に埼玉県住宅供給公社が岡中央団地を建設するにあたり、(財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団（以下、「埼埋文」と記す）も４次にわたる調査を実施している。

平成16年７月20日、マンション建設に伴う建築確認申請に先立ち、埋蔵文化財の所在についての照会文書が、柳田一郎氏（以下、事業主と記す）から岡部町教育委員会（当時、以下「町教委」と記す）あてに提出された。これを受けて町教委は、埋蔵文化財包蔵地図により開発予定地が熊野遺跡内であることを確認し、同年７月22日に書面で回答した。また、これと併せて埋蔵文化財の有無を確認するための試掘調査が必要である旨を伝えた。事業主より試掘依頼書が提出されたのを受けて、８月10日に試掘調査を実施し、遺構の存在が確認されたため、発掘調査を実施することで調整を進めた。その結果、開発に先立ち事業主から文化財保護法57条の２に基づく埋蔵文化財発掘届が、９月３日付けで文化庁長官宛に提出された。これを受けて、町教委では、文化財保護法98条の２第１項に基づく埋蔵文化財発掘調査の通知を９月３日に提出した。

2．発掘調査・整理・報告書刊行の組織

⑴　発掘調査（平成16年度：岡部町）

教育長	畠山　重男
教育次長	荻原　茂
主幹	大谷　住雄
主任	鳥羽　政之
〃	平田　重之
〃	宮本　直樹
臨時職員	竹野谷俊夫
〃	黒澤　恵
〃	佐藤　由江
〃	布施みゆき

⑵　整理・報告書刊行（平成20年度）

教育長	猪野　幸男
部長	石田　文雄
教育次長	中村　信雄
課長	澤出　晃越
課長補佐	吉場　厚仁
主査	鳥羽　政之
〃	森下昌市郎
〃	宮本　直樹
主任	知久　裕昭
主事	幾島　審
臨時職員	栗原貴世美
〃	竹野谷俊夫
〃	伊藤万里子
〃	北本ゆかり
〃	黒澤　恵
〃	佐藤　由江
〃	布施みゆき

第１図　熊野遺跡の範囲と調査地点

第２図　熊野遺跡161次調査地点位置図

Ⅱ　遺跡の地理・歴史的環境

1．地理的環境

埼玉県の北部に位置する深谷市は、北は利根川を挟んで群馬県と接する。南部には荒川が東流し、両河川が最も近接する地域である。

深谷市の南半部は櫛引台地、北半部は妻沼低地であり、地形的に二分できる。櫛引台地は、荒川によって形成された荒川扇状地が浸食されてできた洪積台地である。寄居付近を頂点として、西側の櫛引面と東側の一段低い寄居面、両者に挟まれるように御稜威ケ原面からなる。この間を唐沢川や藤治川が北流する。また、台地上には、観音山（標高77m）、仙元山（標高98m）、山崎山（標高117m）などの独立丘陵が存在する。台地の北端は崖線を形成し、比高差５～10mで妻沼低地と接する。

妻沼低地は、利根川の作用で形成された沖積低地である。さらに、利根川をはじめ小山川・福川などによって、自然堤防や後背湿地が形成されたと推定されている。

熊野遺跡は、櫛引台地北部の深谷市岡字熊野他に所在する。JR高崎線岡部駅の北西に位置し、東西1300m、南北1,000mの範囲に及ぶ大規模な遺跡である。かつては、駅から少し離れると住宅も少なく、畑地が広がっていたが、近年は区画整理事業等により、市街化が急激に進んでいる。

2．歴史的環境

熊野遺跡の立地する櫛引台地北部は、早くから開発が進み、これらに伴う発掘調査が多く実施されてきた。調査の結果、縄文時代～中世に至る様々な遺構・遺物が検出されている。

縄文時代では、西谷遺跡から爪形文系・多縄文系土器などが検出され、草創期の土器として研究上重要なものである。早期では、撚糸文系土器が西谷遺跡、沈線文系土器が中原・西谷遺跡、条痕文形土器が西龍ケ谷・西谷・茶臼山遺跡から発見されている。前期では宮西遺跡で関山式期、四十坂遺跡で黒浜式期、沖田・東光寺裏遺跡で諸磯Ｂ式期の集落跡が検出されている。中期では、水窪遺跡で勝坂式期～加曽利Ｅ１式期、菅原遺跡で加曽利Ｅ３式期の環状集落が発掘調査されている。後期では、上宿遺跡で敷石住居跡が検出されている。晩期では、原ケ谷戸遺跡の発掘調査で、安行Ⅲａ式期の良好な資料が出土している。

弥生時代では、四十坂遺跡より縄文晩期～弥生初期の土器群が出土し、弥生初期のまとまった資料として早くから注目されてきた。平成2年の発掘調査では、再葬墓や土坑墓群が検出され、弥生時代の開始を窺わせる資料として重要である。

古墳時代に至ると、遺跡数は急増し、重要な遺構も多数確認されている。

四十坂遺跡からは、五領～和泉期に至る方形周溝墓群が検出され、この段階から後期群集墳まで連綿と墳墓が営まれていたことが知られる。中でも四十塚古墳は、横矧板鋲留短甲・五鈴鏡板付轡などを出土し、これらの遺物から５世紀後半の当地域の首長墓と捉えられている。

その後、６世紀代には、やはり首長墓と想定される寅稲荷塚古墳（前方後円墳）が四十塚古墳群内に出現する。これ以降、首長墓は、お手長山古墳（帆立貝式古墳）・内出八幡塚古墳（円墳）・愛宕山古墳（方墳）と順次南東方向へ移動しながら単独で築造されたことが認められる。

原ケ谷戸遺跡は、方形周溝墓６基、円形周溝墓１基、円墳21基、帆立貝式古墳１基が検出されている。四十坂遺跡と藤治川の両岸に立地し、両古墳群の変遷過程のあり方が共通することが注目される。

熊野遺跡の東に接する白山古墳群では、６世紀代の古墳跡24基（円墳23、帆立貝式古墳１）が調査された。弾琴埴輪や壺を捧げ持つ巫女の埴輪など６体の人物埴輪が、ほぼ完全な形で出土した。

この他に、菅原古墳群・前原古墳群・上原古墳群などが台地上に展開する古墳群であり、西山古墳群・千光寺古墳群・諏訪山古墳群などが丘陵上に立地する古墳群である。

なお、櫛引台地北部における古墳時代の集落は、現

在のところ中宿遺跡や上宿遺跡など数軒が確認されているに過ぎない。この時代の集落は、妻沼低地に立地する砂田前遺跡・岡部条里遺跡や本庄台地上の六反田遺跡・大寄遺跡・宮西遺跡などがあり、櫛引台地以外に分布の中心が認められる。

また、該期の遺跡として、狢山祭祀遺跡が挙げられる。畑の開墾中に偶然土製模造品が出土し、３回の開墾で形が判明したものだけでも100点を超える模造品を中心に数点の土師器が含まれる。遺跡が古代榛沢郡と児玉郡・那珂郡の郡界に存在する山崎山丘陵の斜面に位置することから、坂の神を祭った遺跡であったことが推定されている。

奈良～平安時代になると、様相は一変する。それまで墓域として利用されてきた熊野遺跡内に、突如集落が営まれる。これまでに163次に及ぶ調査が実施され、720軒を超える竪穴住居跡、160棟の掘立柱建物跡をはじめ、道路状遺構・大溝・石組井戸・連房式鍛冶工房など特殊な遺構が多数検出された。また、和銅開寶・円面硯・帯金具・唐三彩の陶枕・刻字紡錘車・陶製仏殿・置きカマドなど他の集落では見られない貴重な遺物も多数出土している。

なお、集落の開始時期は、131次調査の１・２号竪穴住居跡から出土した畿内産土師器の年代観から、７世紀第３四半期と考えられている。さらに、１次調査において検出された７間×３間をはじめとする大型建物の存在から、該期の熊野遺跡は初期評家と想定されている。

また、櫛引台地縁辺部に位置する中宿遺跡からは、５次にわたる調査の結果、大規模な総柱式建物跡20棟が規則的に配置された状態で検出された。榛沢郡衙に伴う正倉跡と推定され、７世紀後半の成立であることから熊野遺跡との関連が想定される。また、中宿遺跡が立地する台地直下から、「滝下大溝」が検出された。その北方で条里遺構が確認されたことから、灌漑と運河の機能を併せ持っていた大溝であったことが想定される。

さらに、熊野遺跡の北東に位置する岡遺跡は、８世紀第２四半期と考えられる蓮華文軒丸瓦などが古くから多量に表採され、廃寺跡と推測されてきた。平成13年度に町教委が実施した確認調査により、版築された基壇状遺構が検出された。近接する住居跡からは、「榛」の刻字瓦や「寺」と墨書された土師器坏なども出土し、寺院跡である可能性がほぼ確実となった。

なお、この岡廃寺の北側、中宿遺跡の東側にもあたる台地末端上に、島護産泰神社が鎮座する。北側は崖線であり、現在でも湧水が認められる。創建時期は不明であるが、これらの状況から、古代に遡る可能性を指摘しておきたい。

このように、奈良～平安時代の櫛引台地北部は、中宿遺跡・熊野遺跡を中心として、その周辺に集落や寺院が展開していた状況が窺われる。

古代から中世にかけては、猪股党の岡部六弥太忠澄や丹党の榛沢六郎成清の活躍が『平家物語』などから知られる。

14世紀中ごろ、北関東の新田氏の勢力を抑え、さらに関東から越後に至る通路確保のために関東管領上杉憲顕の命により六男憲英が庁鼻和城を築いたのが、深谷上杉氏の始まりであるといわれる。深谷城は、古河公方の勢力に備えるために、深谷上杉氏が康正２年（1456）に築城した説が有力であるという。当年９月17日には利根川沿いの岡部原（現在の深谷市岡部周辺）で古河軍と上杉軍が衝突している。この他に、岡部六弥太館跡からは、方形に廻る堀跡や井戸、土壙墓などが検出された。同様な堀跡は、熊野遺跡と白山遺跡からも検出され、館跡に付属するものと推定されている。西龍ヶ谷遺跡では、軸を揃えて並んだ６棟の掘立柱建物群が確認された。

1．熊野遺跡　（律令期集落・官衙・中世居館）
2．中宿遺跡　（郡衙正倉・律令期集落）
3．滝下遺跡　（河川跡・律令期集落）
4．岡廃寺　（寺院跡・古墳～律令期集落）
5．岡部条里遺跡　（古墳集落・条里水田・律令期居宅）
6．砂田前・樋詰遺跡　（古墳～平安集落）
7．白山遺跡　（古墳群・律令期集落・中世居館）
8．新田遺跡　（律令期集落）
9．上宿遺跡　（縄文・古墳～律令期集落）
10．四十坂遺跡　（縄文集落・弥生再葬墓・周溝墓・古墳群）
11．原ケ谷戸遺跡　（縄文・古墳集落・古墳群）
12．水窪遺跡　（縄文・古墳集落・周溝墓・古墳群）
13．新井遺跡　（律令期集落）
14．東五十子遺跡　（古墳・中世集落）
15．六反田遺跡　（古墳・中世集落）
16．大寄遺跡　（縄文・弥生～律令期集落）
17．西浦北遺跡　（縄文・古墳～律令期集落）
18．東光寺裏遺跡　（縄文・平安集落）
19．榛沢六郎成清館跡　（中世）
20．石蒔遺跡　（古墳～平安集落・周溝墓）
21．地神祇遺跡　（古墳～平安集落）
22．千光寺遺跡　（古墳群・平安集落）
23．西谷遺跡　（縄文）
24．茶臼山遺跡　（古墳群）
25．伝上杉館跡　（中世）
26．山河聖天社　（中世）
27．西龍ヶ谷遺跡　（律令期集落・中世居館）
28．伝岡部六弥太館跡　（中世）
A．四十坂浅間山古墳　（円墳）
B．寅稲荷塚古墳　（前方後円墳）
C．お手長山古墳　（帆立貝式古墳）
D．前原愛宕山古墳　（方墳）
E．内出八幡塚古墳　（円墳）
F．四十塚古墳群　（古墳群）

第３図　周辺の遺跡分布

Ⅲ　発見された遺構と遺物

(1)　発掘調査の経過

①　発掘調査の経過

熊野遺跡第161次調査地点は、深谷市岡字内出2,806番地及び字熊野2,882番地である。

周囲は、区画整理事業及び個人住宅建築等により発掘調査が実施されてきた。近接して20次・35次・127次・131次調査区などが位置する。調査区中央での標高は、52.1mを測る。

発掘調査は、平成16年９月７日から同年10月８日にかけて実施した。発掘調査面積は、約875㎡である。

発掘調査は、まずバックホーによる表土除去から行った。遺構確認面は、表土から30cmほど掘り下げたソフトローム面とした。

表土除去後、遺構確認作業を行い、竪穴住居跡８軒、掘立柱建物跡１棟、溝１条、土坑、ピットなどを確認した。

遺構確認状況の写真撮影の後、調査区の北東端に位置する７号溝から掘り下げを開始した。その後、順次他の遺構も掘下げていった。

途中、遺物が出土した場合には、現位置を留めるよう努め、出土状況の写真撮影・図化作業を実施した後、遺物を取り上げた。また、土層断面図の作成は、遺構掘り下げと並行して実施し、その後に平面図を作成した。土層断面図・平面図ともに1/ 20の縮尺で実測した。

全ての掘り下げ・図化作業が終了した後、全景写真を撮影した。これにより、発掘調査の全工程が終了し、機材等の撤収を行った。

(2)　遺構と遺物

調査により検出された遺構は、奈良時代の竪穴住居跡７軒、掘立柱建物跡１棟、井戸跡２基、土坑９基、中世の地下式坑１基、ピット多数である。

【１号竪穴住居跡】

Ａ－５グリッドからＡ－６グリッドにかけて位置する。西半部が調査区域外にあるため、全容は不明である。

平面形態は正方形ないし長方形を呈すると想定される。確認できたのは東西4.34m、南北1.64mの範囲である。主軸方位は、N-64°-Eである。

壁はほぼ垂直に掘り込まれ、床面は若干の凹凸をもつ。確認面からの深さは、75cmを測る。

カマドは東壁を削り出し構築されていた。袖はわずかに地山を残し、燃焼部が外へ張り出すタイプである。燃焼部の長さは、98cmである。

周溝は、幅10 ～ 16cm、床面からの深さは３～５cmである。柱穴は、確認されなかった。

出土遺物は、土師器の坏・甕、須恵器の坏・甕がある。

【２号竪穴住居跡】

Ｃ－４グリッドに位置する。

平面形態は長方形を呈し、長軸3.27m、短軸2.51mを測る。主軸方位は、N-80°-Eである。

壁はほぼ垂直に掘り込まれ、床面は若干の凹凸をもつ。確認面からの深さは、21cmを測る。

カマドは、東壁を削り出し構築されていた。右袖は粘土を作り付け、長さ46cmを測る。左袖はなく、右袖先端のラインまで壁が内側に入っている。燃焼部の幅は56cm、長さは76cmである。

周溝および柱穴は、確認されなかった。

遺物は、土師器の甕、須恵器の坏・皿・高台埦・甕、灰釉長頸瓶、磨り石がある。

【３号竪穴住居跡】

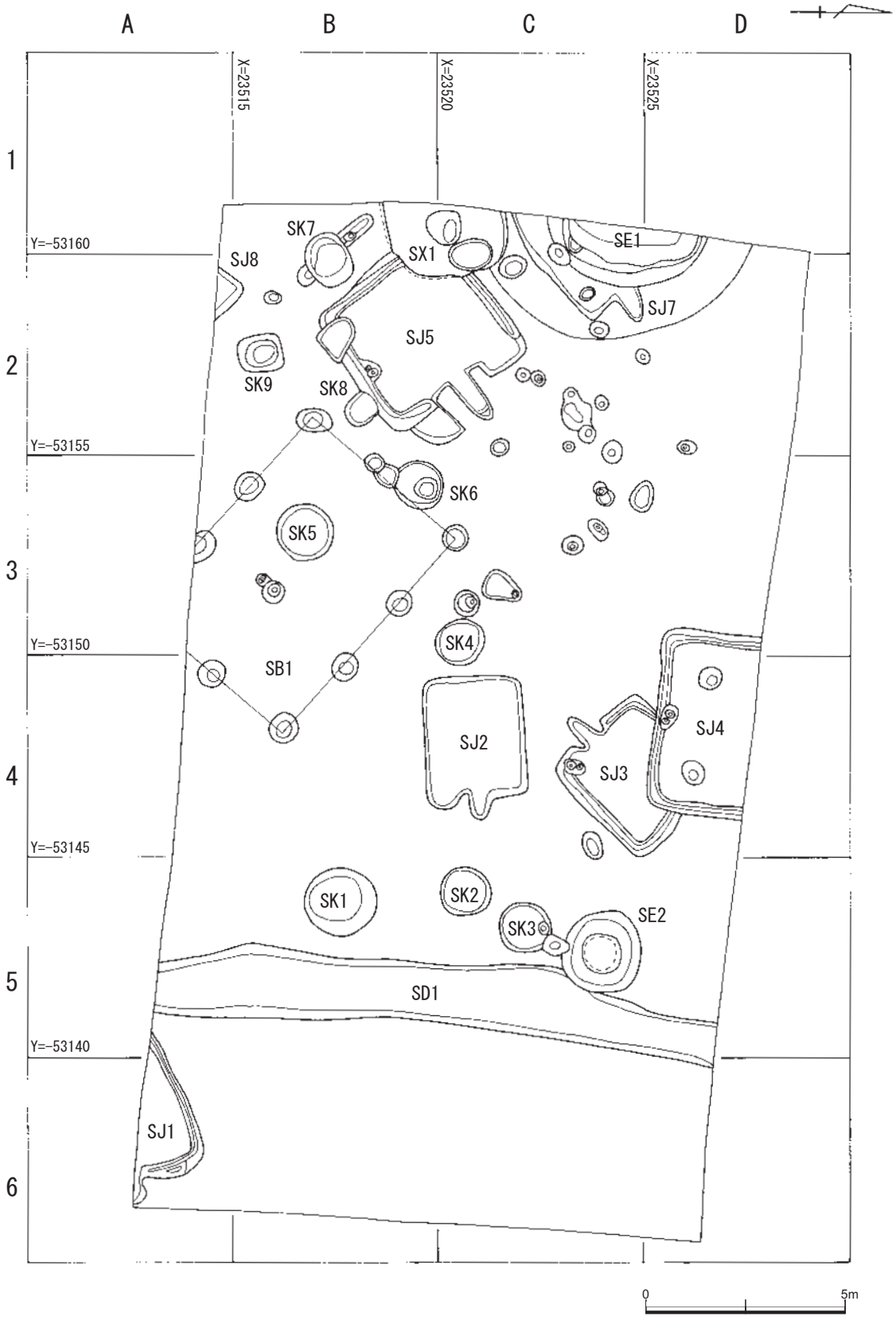
Ｃ－４グリッドからＤ－４グリッドにかけて位置する。４号住居跡と重複し、切り合い関係から本遺構の方が新しいことが判明している。

平面形態は長方形を呈し、東西3.24m、南北2.90mを測る。主軸方位は、N-146°-Wである。

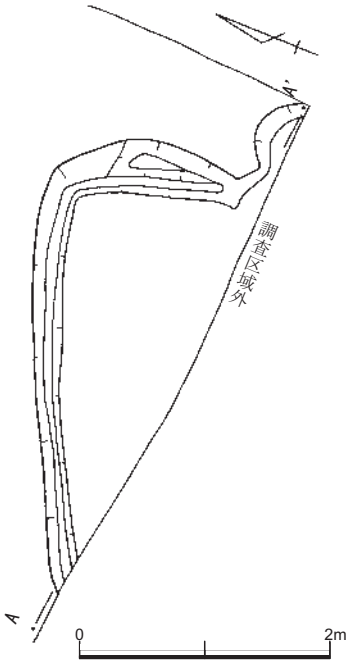
壁はほぼ垂直に掘り込まれ、床面は若干の凹凸をもつ。確認面からの深さは、31cmを測る。

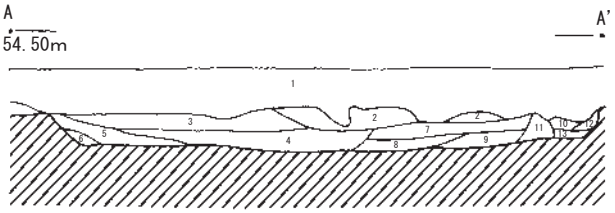
カマドは、西壁を削り出し構築されていた。袖は粘土を作り付け、右袖36cm、左袖32cmを測る。燃焼部の幅は48cm、長さは96cmである。

周溝は、４号住居跡と重複する部分を除き、検出さ



第４図　熊野遺跡161次調査全測図

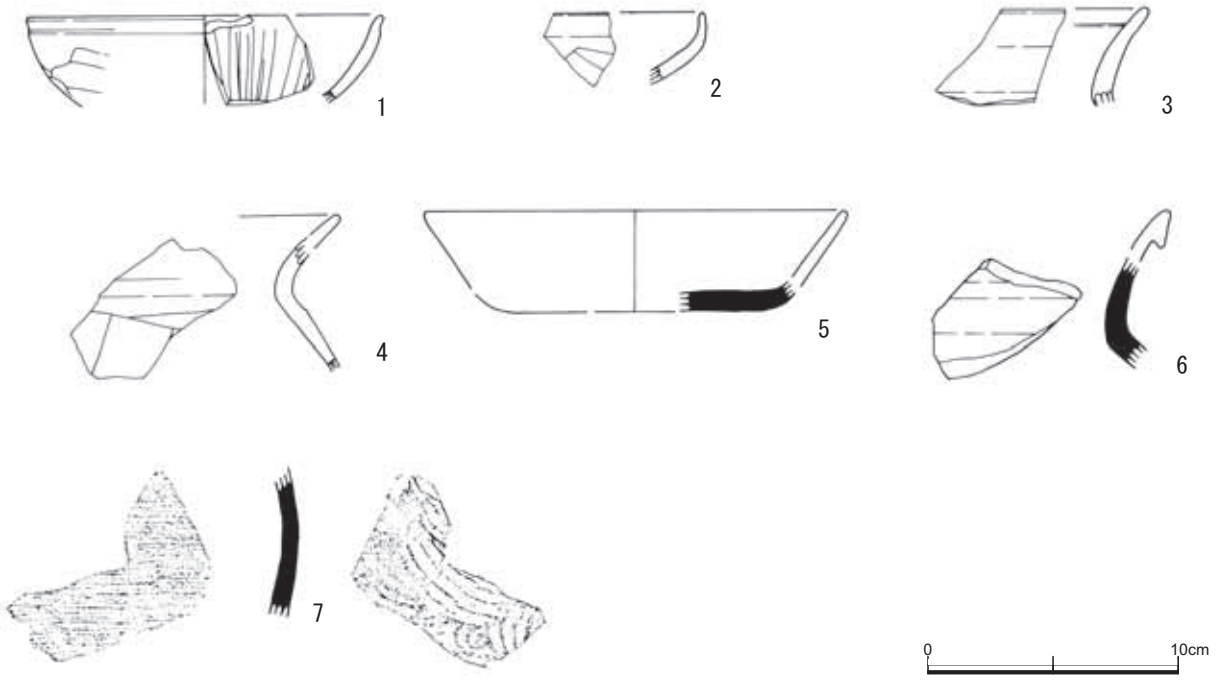




1号住居跡土層説明

1	暗褐色土	耕作土。
2	茶褐色土	ローム粒少量、ロームブロック微量含む。
3	黒褐色土	ローム粒微量含む。
4	暗茶褐色土	ローム粒・ロームブロック少量含む。
5	黒褐色土	ローム粒・ロームブロック少量含む。
6	暗茶褐色土	ローム粒多量、ロームブロック少量含む。
7	茶褐色土	ローム粒多量、ロームブロック少量含む。
8	暗茶褐色土	ローム粒少量、ロームブロック微量含む。
9	黒褐色土	ローム粒少量、ロームブロック微量含む。
10	暗赤褐色土	粘土ブロック主体（被熱）。
11	暗茶褐色土	粘土粒多量含む。
12	黒褐色土	粘土粒・焼土粒多量、ロームブロック微量含む。
13	黒褐色土	ローム粒多量、焼土粒少量含む。

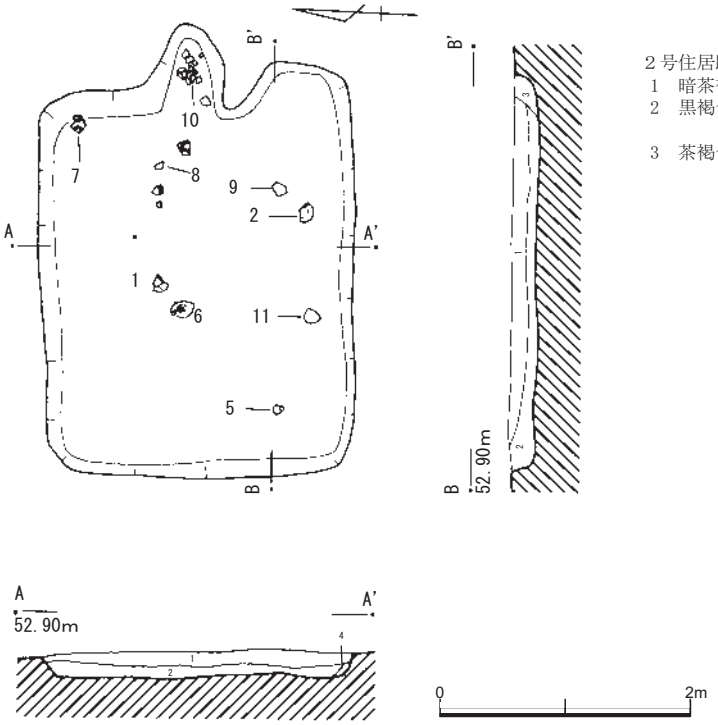
第５図　１号住居跡実測図



第６図　１号住居跡出土遺物実測図

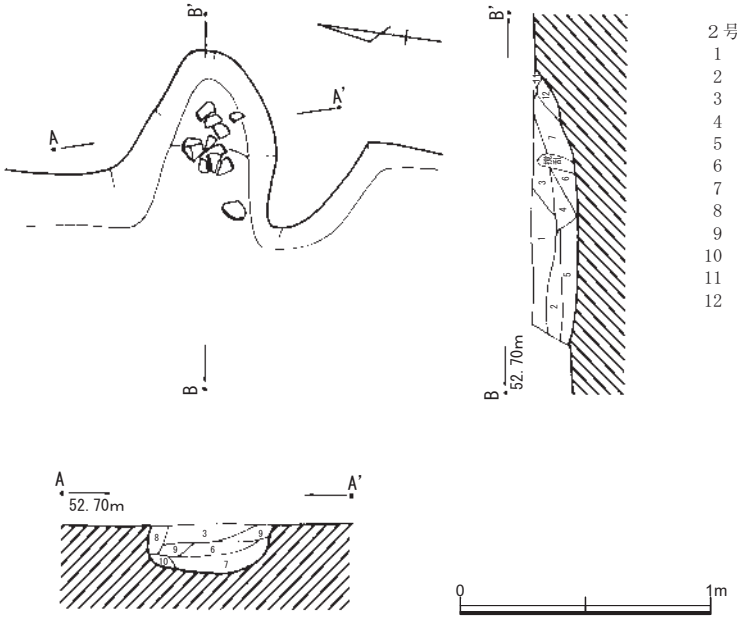
１号住居跡出土遺物観察表

番号	器　種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	色　調	焼成	胎　　土	残存率	備　　考
1	坏	(13.8)	《3.5》	-	赤褐色	普通	石英、角閃石、白色粒	図示10%	覆土、内面放射状暗文
2	坏	-	-	-	灰褐色	普通	石英、輝石	破片	覆土
3	甕	-	-	-	灰赤褐色	普通	石英、角閃石、砂粒	破片	覆土
4	甕	-	-	-	橙褐色	普通	石英、雲母、微砂粒	破片	覆土
5	須恵坏	-	《1.1》	(11.0)	淡灰色	不良	石英、チャート、黒色粒、砂粒	図示10%	覆土、底部全面回転篦ケズリ、末野産
6	須恵甕	-	-	-	暗灰色	普通	石英、長石	破片	覆土、内外面回転ナデ、末野産
7	須恵甕	-	-	-	灰色	普通	石英、長石、片岩	破片	覆土、外面平行叩き、内面青海波叩き、末野産



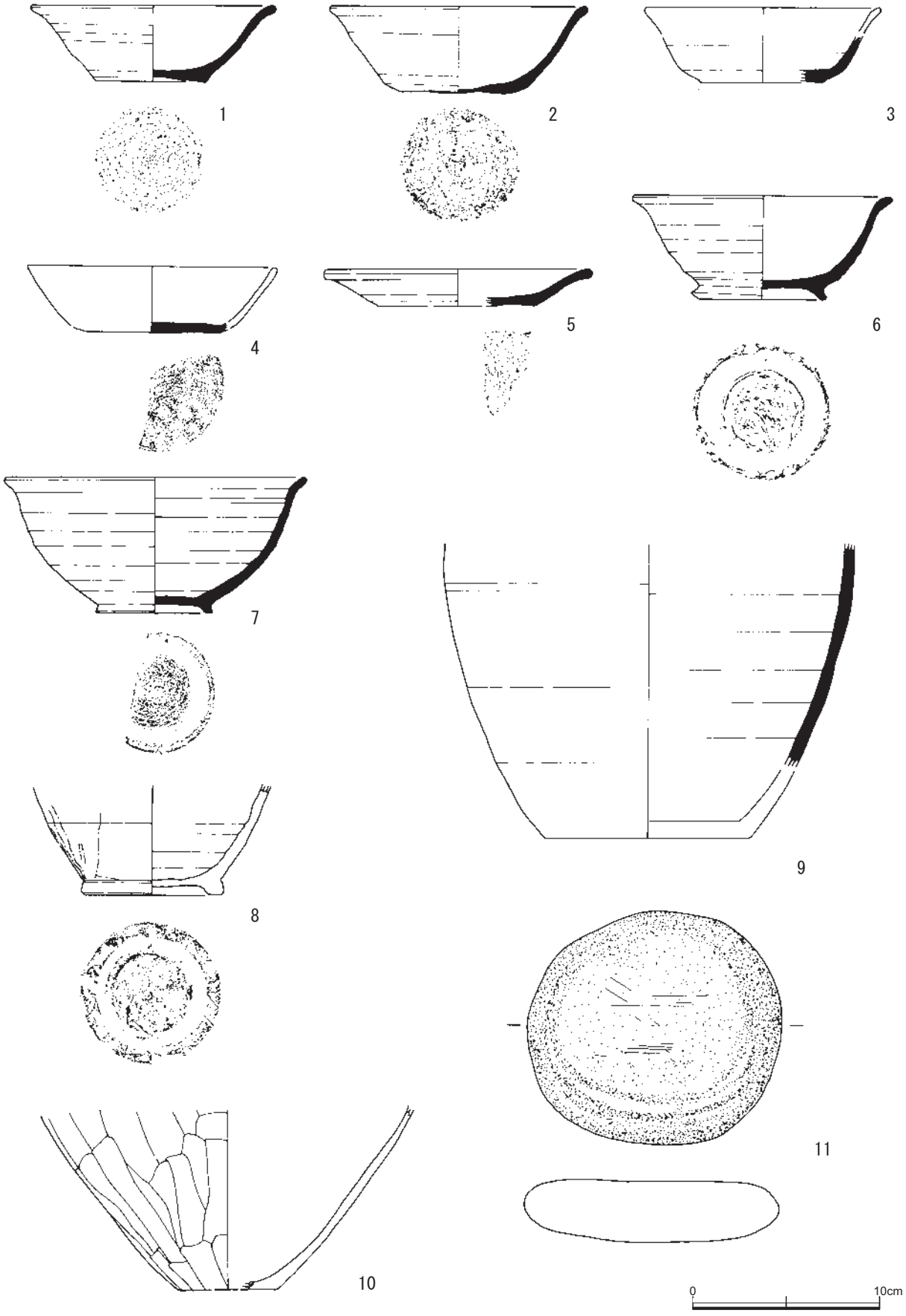
2号住居跡土層説明
1　暗茶褐色土　ローム粒微量含む。
2　黒褐色土　ローム粒少量、ロームブロック微量含む。
3　茶褐色土　ローム粒多量含む。

第７図　２号住居跡実測図



２号住居跡カマド土層説明
1　暗褐色土　ローム粒微量含む。
2　黒褐色土　ローム粒・焼土粒・炭化粒微量含む。
3　暗茶褐色土　ローム粒・焼土粒微量含む。
4　暗茶褐色土　焼土粒少量、炭化粒微量含む。
5　茶褐色土　ローム粒多量、焼土粒少量含む。
6　灰褐色土　焼土粒微量含む。
7　暗灰褐色土　ローム粒・焼土粒微量含む。
8　明褐色土　粘土ブロック主体に焼土粒多量含む。
9　明褐色土　粘土ブロック主体に焼土粒微量含む。
10　暗灰褐色土　焼土粒少量含む。
11　暗茶褐色土　焼土粒多量含む。
12　暗茶褐色土　粘土粒多量含む。

第８図　２号住居跡カマド実測図



第９図　２号住居跡出土遺物実測図

２号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	色　調	焼成	胎　　土	残存率	備　　考
1	須恵坏	12.6	4.0	5.8	灰色	普通	石英、長石、黒色粒多（粗い）	90%	図示、底部回転糸切り未調整、末野産
2	須恵坏	13.2	4.6	6.0	暗灰褐色	不良	長石、片岩、細礫	70%	図示、底部回転糸切り未調整、末野産、磨滅あり
3	須恵坏	-	《2.5》	(6.4)	明灰色	普通	石英、長石、片岩、黒色粒	図示40%	覆土、底部回転糸切り未調整、末野産
4	須恵坏	-	0.6	(7.0)	灰褐色	普通	石英、長石、海綿骨針	図示30%	覆土、底部全面回転篦ケズリ、南比企産
5	須恵皿	(13.7)	2.0	(8.0)	明灰色	普通	石英、微砂粒、褐色粒	図示20%	図示、底部回転糸切り未調整、末野産
6	須恵高台埦	13.4	5.5	7.0	明灰色	普通	長石、黒色粒多（粗い）	95%	図示、内面に重ね焼き痕、末野産
7	須恵高台埦	(15.7)	7.2	6.1	灰褐色	良好	石英、長石、片岩、細礫	図示35%	図示、末野
8	灰釉長頸瓶	-	《5.9》	7.3	淡灰色	良好・堅緻	精良	図示70%	図示、内外面に降灰釉、猿投産
9	須恵器甕	-	《11.7》	-	灰色	普通	石英、長石	図示15%	図示、末野産
10	甕	-	《9.7》	(5.0)	灰橙褐色	普通	石英、角閃石、雲母、微砂粒	図示20%	カマド図示
11	磨り石	長さ13.4cm	幅12.4cm	厚さ3.3	重さ 895g	石材硬砂岩		100%	図示

れた。幅は10 ～ 18cm、深さは５～ 11cmである。

ピットは、南コーナーで１基が検出された。平面形態は楕円形で、直径53cm、深さ30cmである。

遺物は、土師器の坏・皿・甕、須恵器の蓋・坏・甕・鉢などがある。

【４号竪穴住居跡】

Ｄ－３グリッドからＤ－４グリッドにかけて位置する。３号住居跡と重複し、新旧関係に関しては、既述した。

北半部が調査区域外にあるため全容は不明である。平面形態は，正方形ないし長方形を呈すると想定され、東西4.68m、南北2.45m以上を測る。主軸方位は、不明である。

壁はほぼ垂直に掘り込まれ、床面はほぼ平坦である。確認面からの深さは、40cmを測る。主柱穴２基が建物のコーナー付近で検出された。平面形態は不整円形で、直径56 ～ 60cm、深さ53 ～ 57cmである。

周溝は、確認できた範囲内では、全周した。幅は13 ～ 21cm、深さは５～ 17cmである。

遺物は、土師器の坏・甕、須恵器の高台埦などがある。

【５号竪穴住居跡】

Ｂ－２グリッドからＣ－２グリッドにかけて位置する。１号竪穴状遺構と重複し、切り合い関係から本遺構の方が古いことが判明している。

プラン確認の段階でカマドが２基検出されたので、当初は住居２軒の重複と想定したが、堀り下げ途中で１軒の住居であることが判明した。

平面形態は，正方形を呈する。規模は、東西3.95m、南北4.00mを測る。主軸方位は、Ｎ-60°-Ｅである。

壁はほぼ垂直に掘り込まれ、床面は緩やかな凹凸をもつ。確認面からの深さは、45cmを測る。

カマドは、東壁を削り出し構築されていた。袖は粘土を作り付け、右袖39cm、左袖49cmを測る。燃焼部は、長さ135cm、最大幅56cmである。

周溝は、カマド左壁を除き全周する。幅は12 ～ 18cm、深さは８～ 11cmを測る。

また、カマド右手に棚状の張り出し部がある。右袖から東へ90cm、北壁から北へ86cmの扇形を呈し、確認面からの深さは22cmである。

遺物は、土器類では土師器の坏・甕・台付甕、須恵器の蓋・坏・高台坏・コップ型・高台埦・皿・甑などが出土した。

この他に、鉄製の刀子、銅製の帯金具（巡方）、土錘、鉄滓などがある。

【６号竪穴住居跡】

５号住居跡のプラン確認段階で、カマド２基が検出されたので、当初は住居２軒の重複と想定したが、堀り下げ途中で１軒の住居であることが判明した。

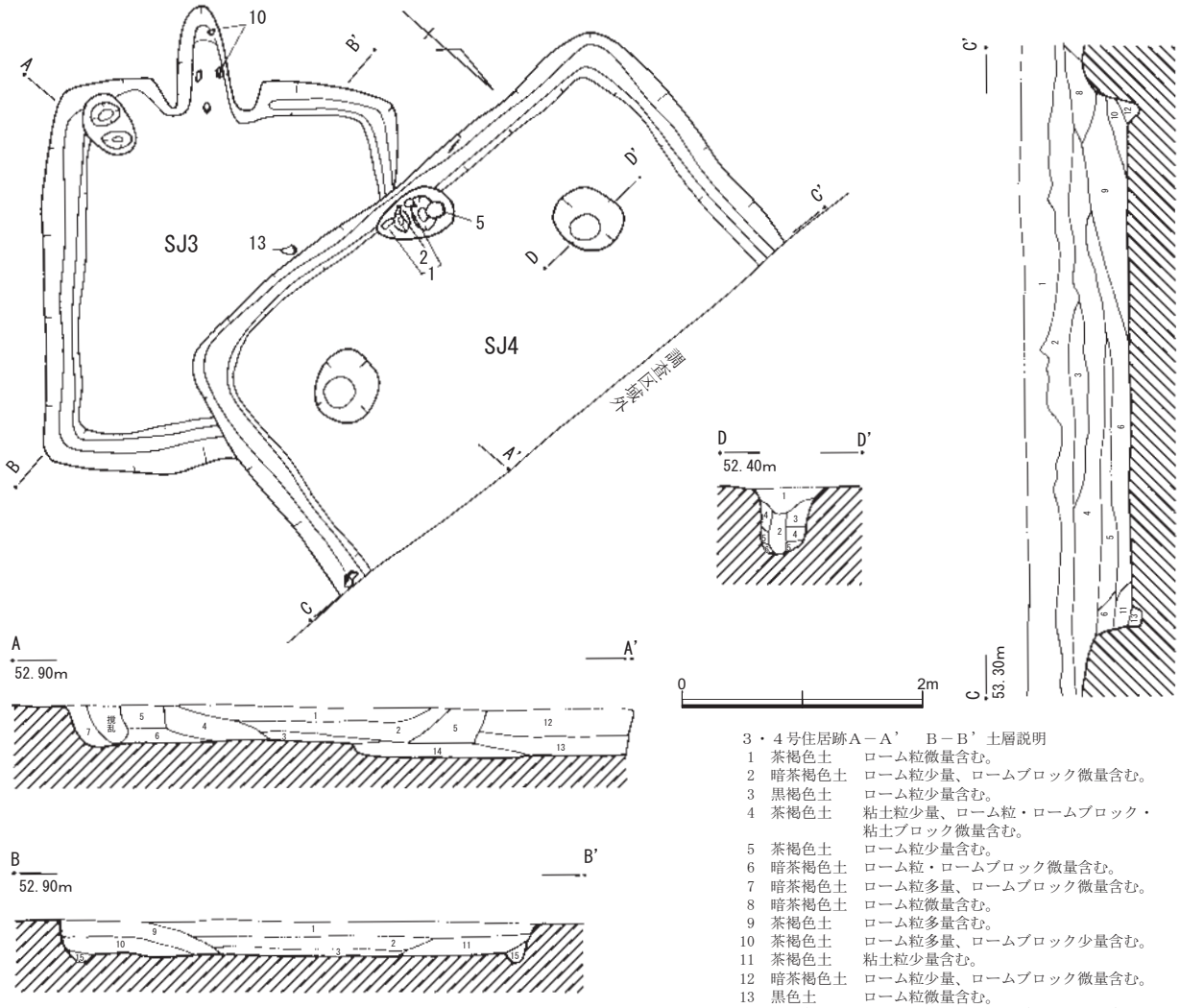
よって、６号住居跡は欠番とする。

【７号竪穴住居跡】

Ｃ－１、Ｃ－２、Ｄ－１グリッドにかけて位置する。１号井戸跡と重複し、切り合い関係から本遺構の方が古いことが判明している。

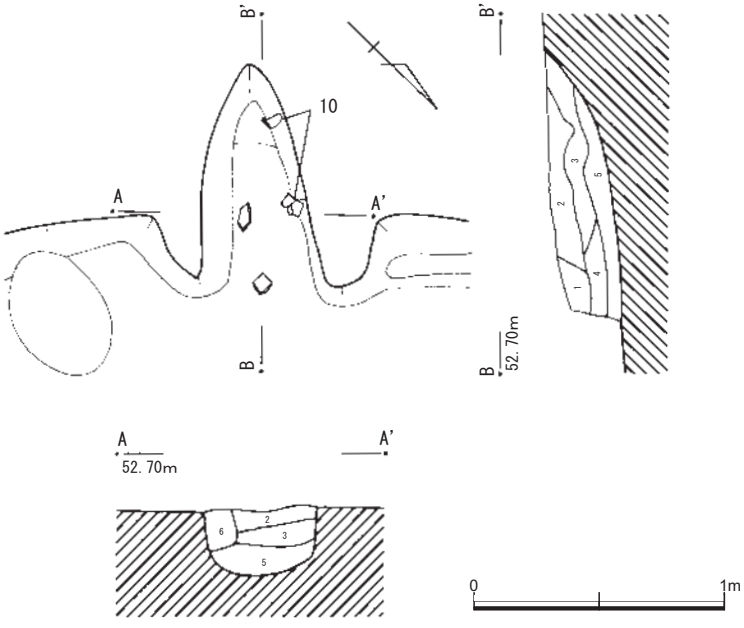
遺構の東部が井戸に切られ、北部が調査区域外にあるため、全容は不明である。

平面形態は、正方形ないし長方形を呈すると想定される。確認できたのは東西3.23m、南北1.45mの範囲である。主軸方位は、Ｎ-48°-Ｅである。



3・4号住居跡A－A’　B－B’土層説明
1　茶褐色土　ローム粒微量含む。
2　暗茶褐色土　ローム粒少量、ロームブロック微量含む。
3　黒褐色土　ローム粒少量含む。
4　茶褐色土　粘土粒少量、ローム粒・ロームブロック・粘土ブロック微量含む。
5　茶褐色土　ローム粒少量含む。
6　暗茶褐色土　ローム粒・ロームブロック微量含む。
7　暗茶褐色土　ローム粒多量、ロームブロック微量含む。
8　暗茶褐色土　ローム粒微量含む。
9　茶褐色土　ローム粒多量含む。
10　茶褐色土　ローム粒多量、ロームブロック少量含む。
11　茶褐色土　粘土粒少量含む。
12　暗茶褐色土　ローム粒少量、ロームブロック微量含む。
13　黒色土　ローム粒微量含む。
14　黒褐色土　ローム粒少量、ロームブロック微量含む。
15　暗茶褐色土　ローム粒少量含む。

第10図　3・4号住居跡実測図

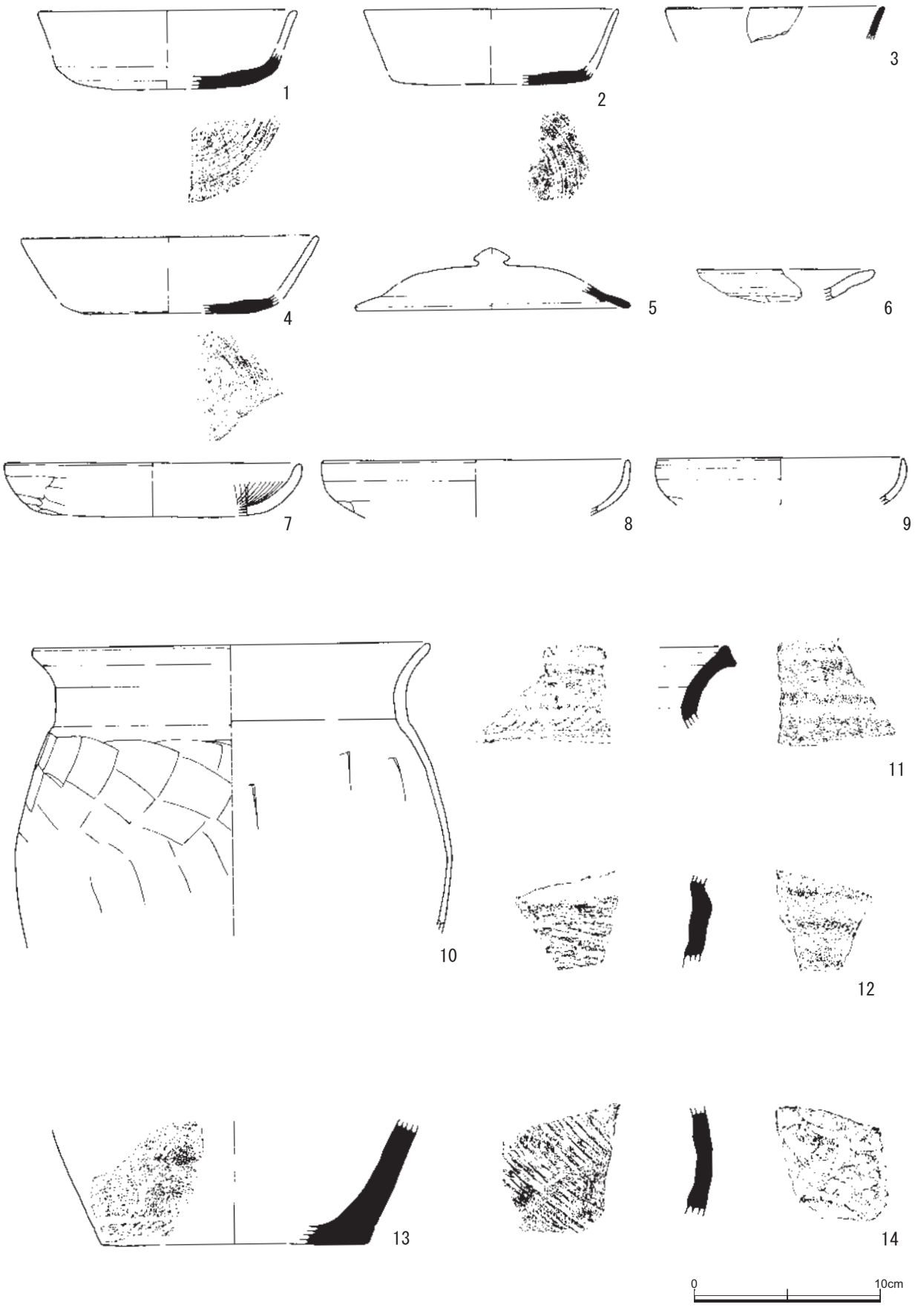


4号住居跡C－C’土層説明
1　暗褐色土　耕作土。A軽石少量含む。
2　暗茶褐色土　ローム粒・焼土粒微量含む。
3　茶褐色土　ローム粒少量含む。
4　暗茶褐色土　ローム粒少量含む。
5　暗茶褐色土　4層に類似するが、色調が暗い。
6　黒褐色土　ローム粒少量含む。
7　黒褐色土　ローム粒多量、ロームブロック微量含む。
8　暗茶褐色土　ローム粒多量含む。
9　黒褐色土　ローム粒多量、ロームブロック少量含む。
10　黒褐色土　ローム粒少量含む。
11　黒褐色土　ローム粒微量含む。
12　黒色土　ローム粒多量含む。
13　黒色土　12層に類似。

4号住居跡内ピットD－D’土層説明
1　黒色土　ローム粒微量含む。
2　黒色土　ローム粒多量、ロームブロック少量含む。
3　黒褐色土　ローム粒多量、ロームブロック少量含む。
4　黒褐色土　ローム粒少量含む。
5　暗茶褐色土　ローム粒多量含む。
6　黄褐色土　ローム粒主体。

3号住居跡カマド土層説明
1層　茶褐色土　粘土粒多量、ローム粒微量含む。粘性強い。
2層　茶褐色土　粘土粒少量、焼土粒・ローム粒微量含む。
3層　暗茶褐色土　焼土ブロック微量含む。
4層　黒褐色土　粘土粒少量、焼土粒・焼土ブロック微量含む。
5層　黒褐色土　焼土粒・ローム粒微量含む。
6層　暗褐色土　粘土粒少量、焼土粒・粘土ブロック微量含む。

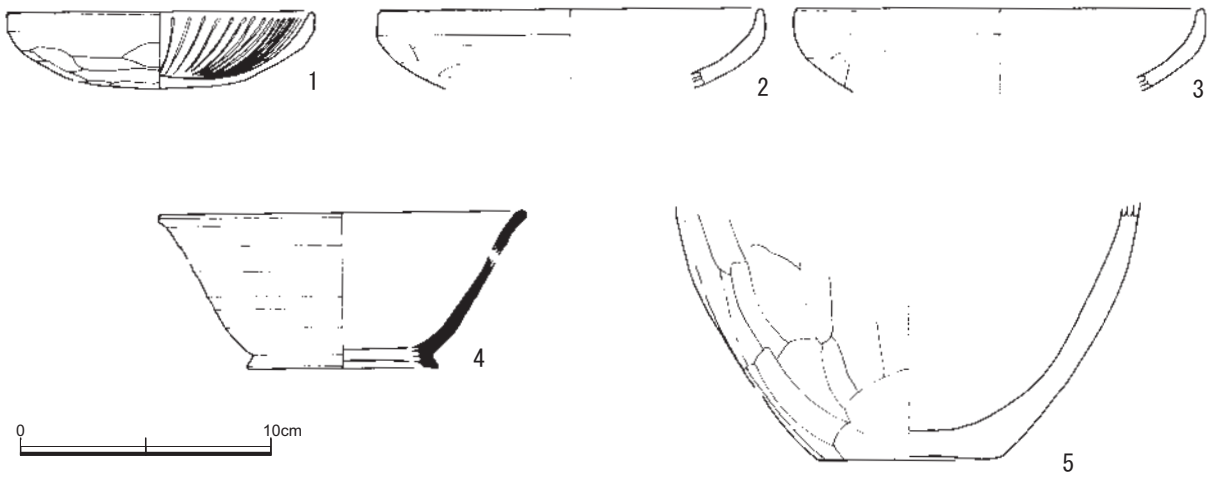
第11図　3号住居跡カマド実測図



第12図　３号住居跡出土遺物実測図

3号住居跡出土遺物観察表

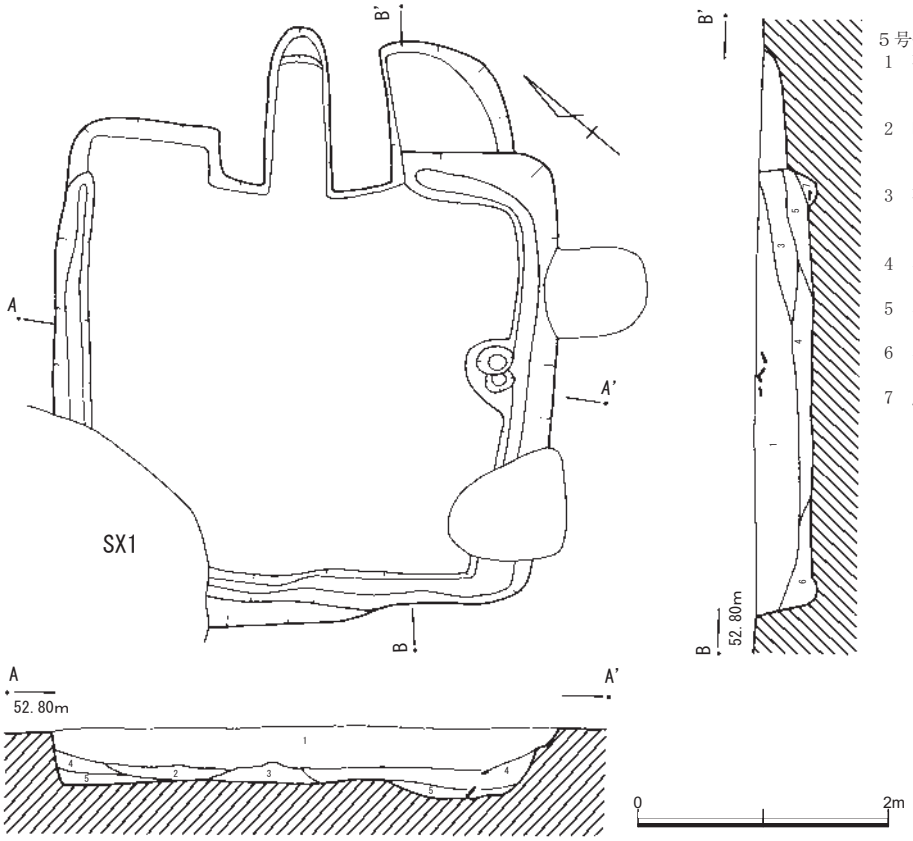
番号	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	色　調	焼成	胎　　土	残存率	備　　考
1	須恵坏	-	《2.2》	(10.0)	明灰色	普通	石英、長石（粗い）	図示 15%	覆土、底部全面回転篦ケズリ、末野産
2	須恵坏	-	《2.2》	(9.0)	灰色	普通	石英、長石	図示 20%	覆土、底部全面回転篦ケズリ、末野産
3	須恵坏	(11.4)	《1.9》	-	灰色	普通	石英、長石	図示 10%	覆土、末野産
4	須恵坏	-	《1.0》	(10.3)	淡灰色	普通	石英、長石、黒色粒	図示 15%	カマド一括、底部全面回転篦ケズリ、末野産
5	須恵蓋	(14.2)	《1.4》	-	淡黄灰色	やや悪	石英、チャート、片岩、長石、微砂粒	図示 10%	覆土、末野産
6	皿	-	-	-	橙褐色	普通	石英、角閃石、パミス	破片	覆土
7	坏	(15.4)	(2.9)	-	暗橙褐色	普通	石英、角閃石、微砂粒	図示 10%	覆土、内面放射状暗文、暗文一部交叉
8	坏	(16.0)	《3.0》	-	灰橙褐色	普通	石英、角閃石	図示 7%	覆土
9	坏	(12.8)	《2.5》	-	灰橙褐色	普通	微砂粒	図示 7%	覆土、内面に油脂状黒斑
10	甕	(20.8)	《20.8》	-	にぶい橙褐色	普通	石英、角閃石、チャート、微砂粒	図示 15%	カマド図示
11	須恵甕	-	-	-	灰色	普通	石英、長石	破片	覆土、口縁外面平行叩き後回転ナデ、末野産
12	須恵鉢	-	-	-	明灰色	普通	石英、長石	破片	覆土、外面平行叩き、末野産
13	須恵甕	-	《6.7》	(14.0)	明灰色	普通	石英、長石、細礫	図示 7%	図示、外面平行叩き後回転ナデ、底部無調整
14	須恵甕	-	-	-	明灰色	普通	石英、長石	破片	覆土、外面平行叩き、内面あて具痕、末野産



第13図　４号住居跡出土遺物実測図

4号住居跡出土遺物観察表

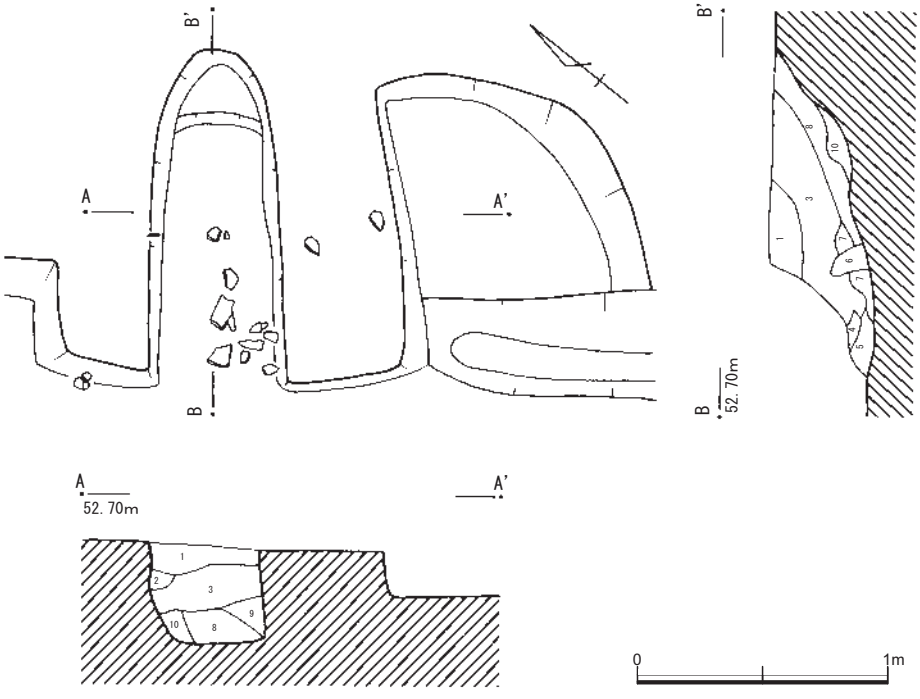
番号	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	色　調	焼成	胎　　土	残存率	備　　考
1	坏	(11.8)	3.0	-	橙褐色	良好	石英、角閃石、チャート、微砂粒	45%	図示、内面放射状暗文
2	坏	(14.7)	《3.1》	-	灰赤褐色	良好	石英、微砂粒	図示 15%	図示
3	坏	(15.7)	《3.3》	-	暗灰橙褐色	普通	石英、角閃石、微砂粒	図示 15%	覆土
4	須恵高台埦	(14.0)	(6.1)	(7.3)	明灰色	普通	石英、長石、片岩、黒色粒	図示 10%	覆土、末野産
5	甕	-	《10.0》	7.0	明橙褐色	普通	微砂粒、酸化鉄粒、ザラつく	図示 60%	図示



５号住居跡Ａ－Ａ’　Ｂ－Ｂ’土層説明

1	茶褐色土	ローム粒多量、ロームブロック・焼土粒微量含む。
2	暗茶褐色土	ローム粒多量、ロームブロック・焼土粒微量含む。
3	茶褐色土	ローム粒多量、粘土粒少量、焼土粒・ロームブロック微量含む。
4	黒褐色土	ローム粒・ロームブロック少量含む。
5	黒褐色土	粘土粒・粘土ブロック少量、焼土粒微量含む。
6	黒褐色土	ローム粒・ロームブロック多量含む。
7	灰褐色土	粘土ブロック主体。焼土粒微量含む。

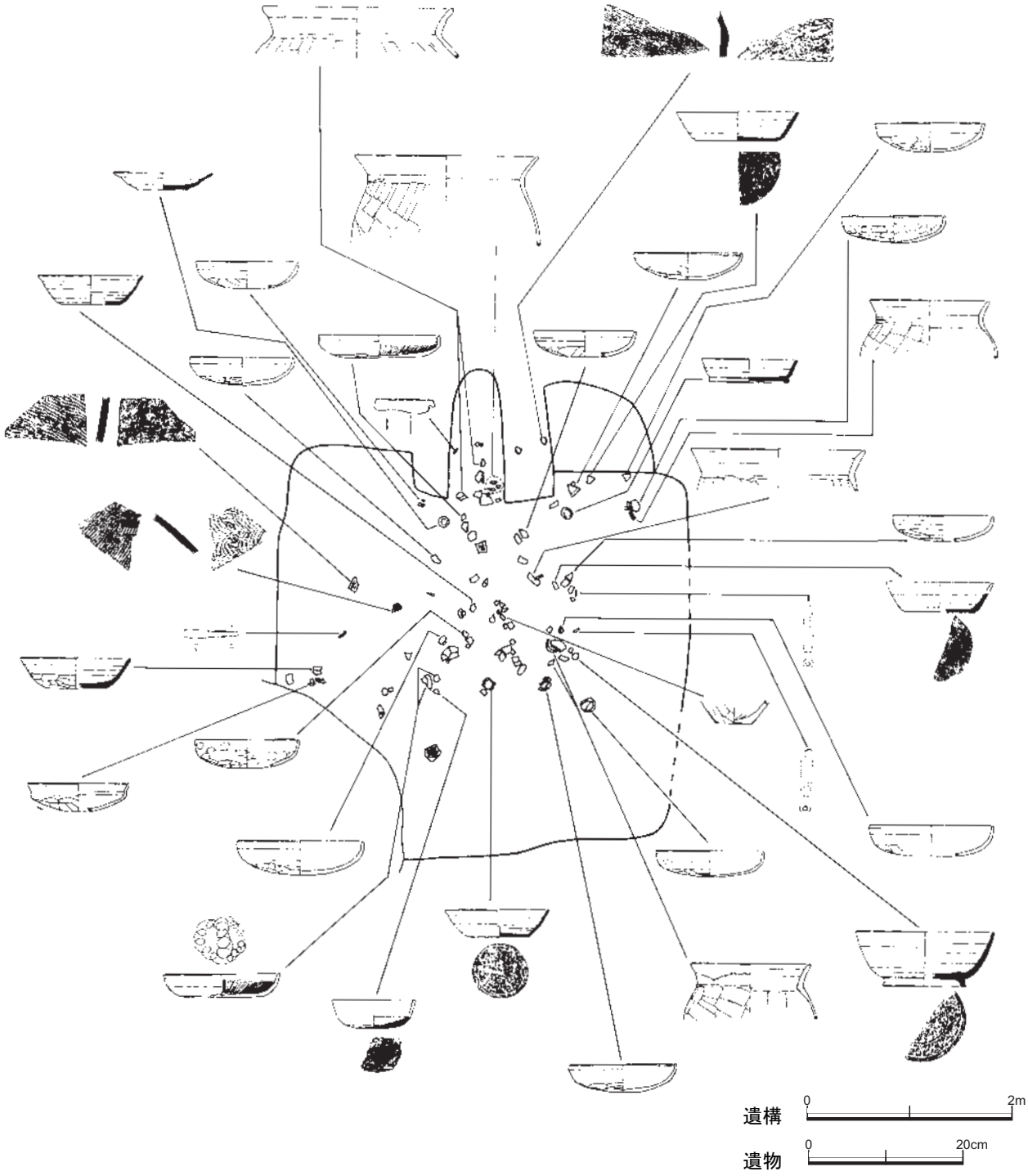
第14図　５号住居跡実測図



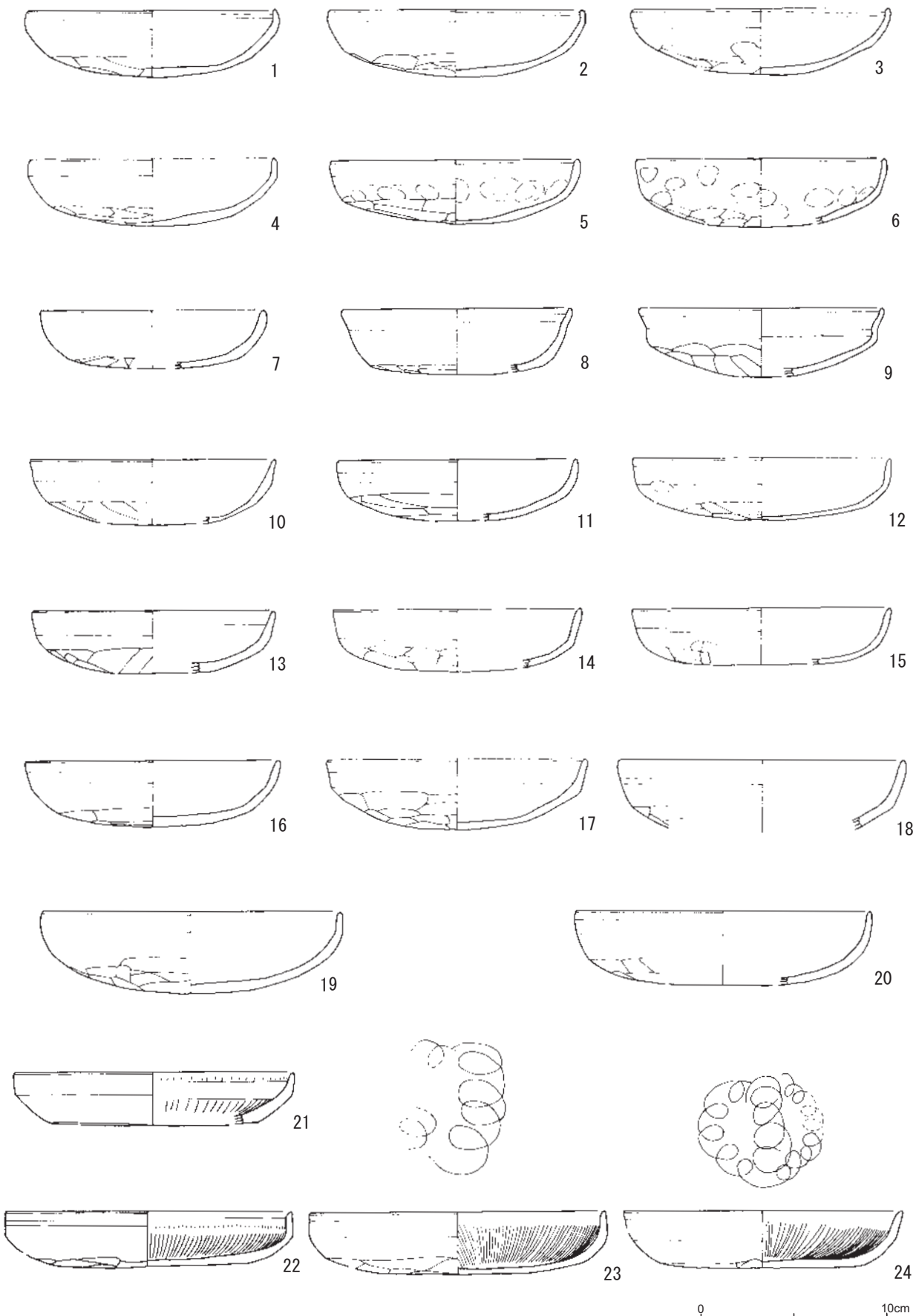
５号住居跡カマド土層説明

1	暗茶褐色土	ローム粒・粘土粒・焼土粒微量含む。粘性あり。
2	黒褐色土	粘土粒少量、焼土粒微量含む。
3	暗灰褐色土	粘土主体。焼土粒微量含む。
4	黒褐色土	粘土粒・焼土粒少量含む。
5	黒褐色土	粘土粒・焼土粒多量、炭化粒微量含む。
6	黒褐色土	粘土粒少量、ローム粒・焼土粒微量含む。
7	黒褐色土	ローム粒多量、焼土粒少量含む。
8	黒褐色土	焼土粒多量、ローム粒少量含む。
9	暗灰褐色土	粘土粒多量、焼土ブロック・粘土ブロック微量。しまり粘性強い。
10	黒褐色土	灰多量、焼土粒少量。しまり弱い。

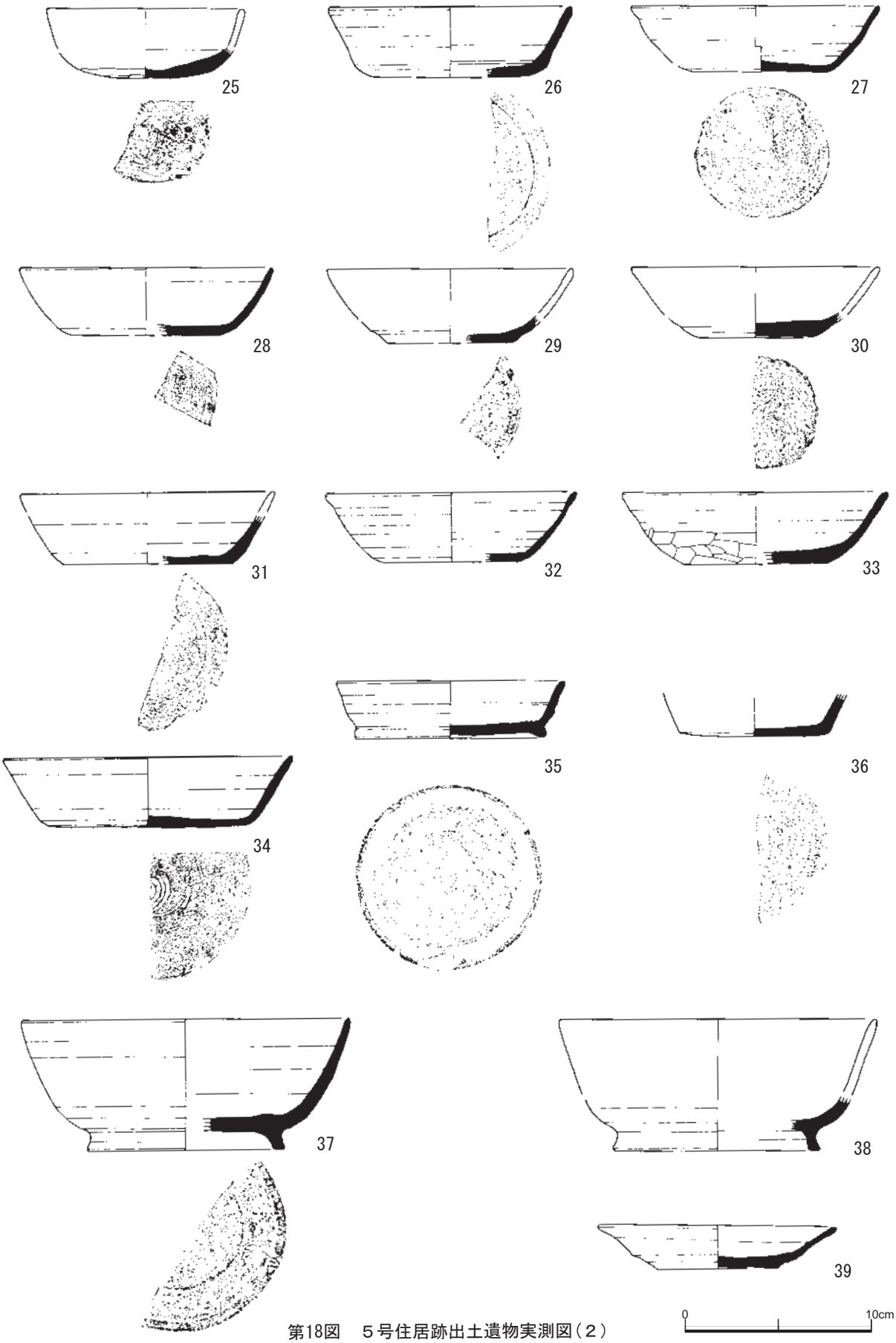
第15図　５号住居跡カマド実測図



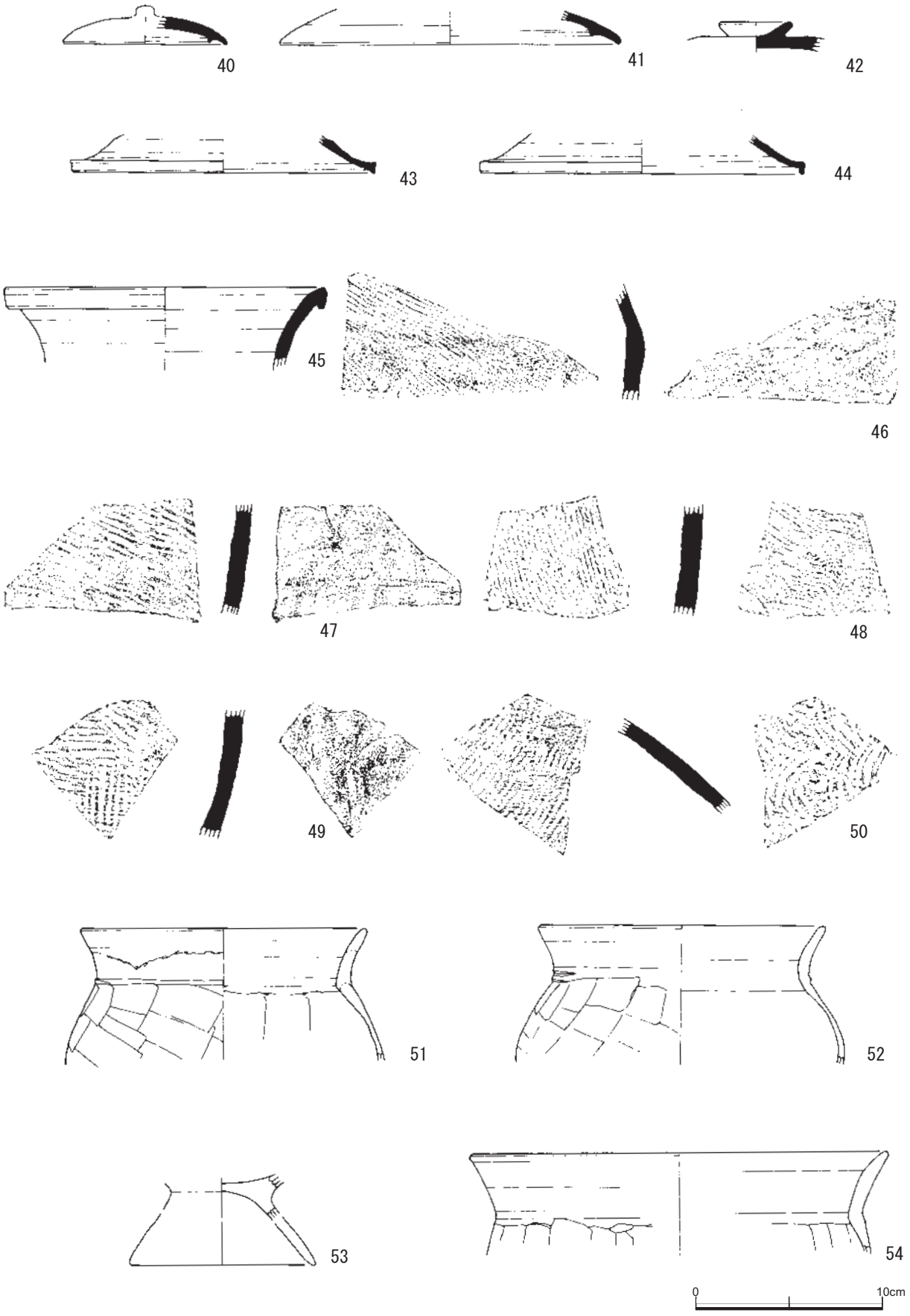
第16図　5号住居跡遺物分布状況図



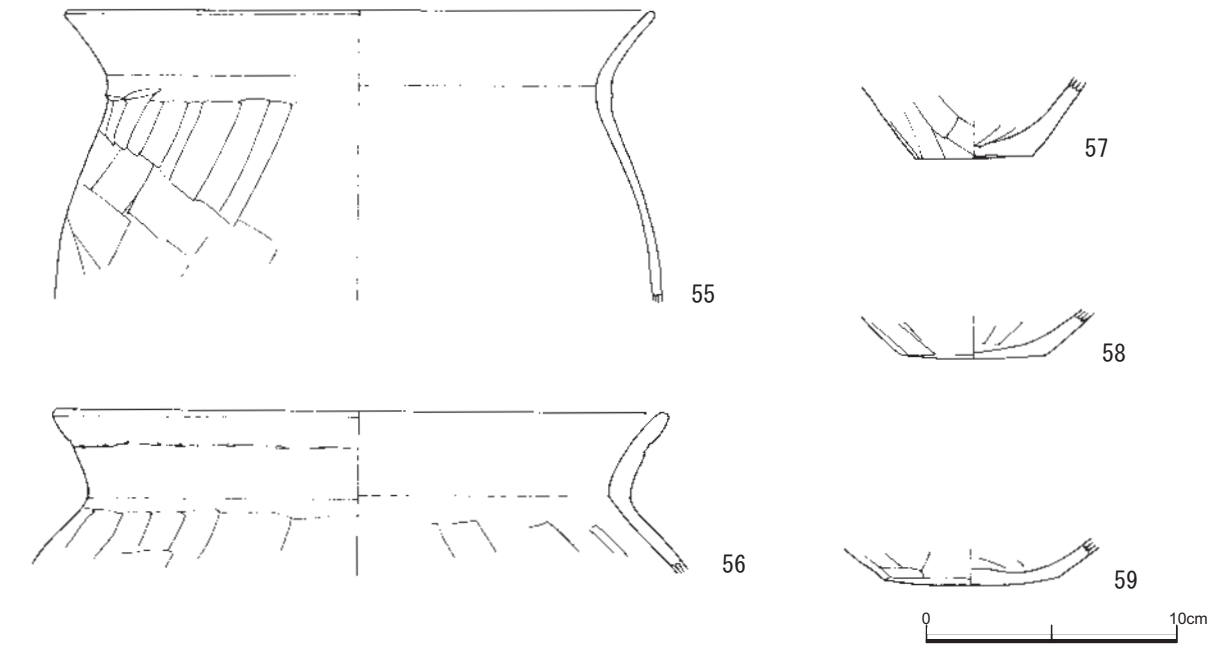
第17図　５号住居跡出土遺物実測図（１）

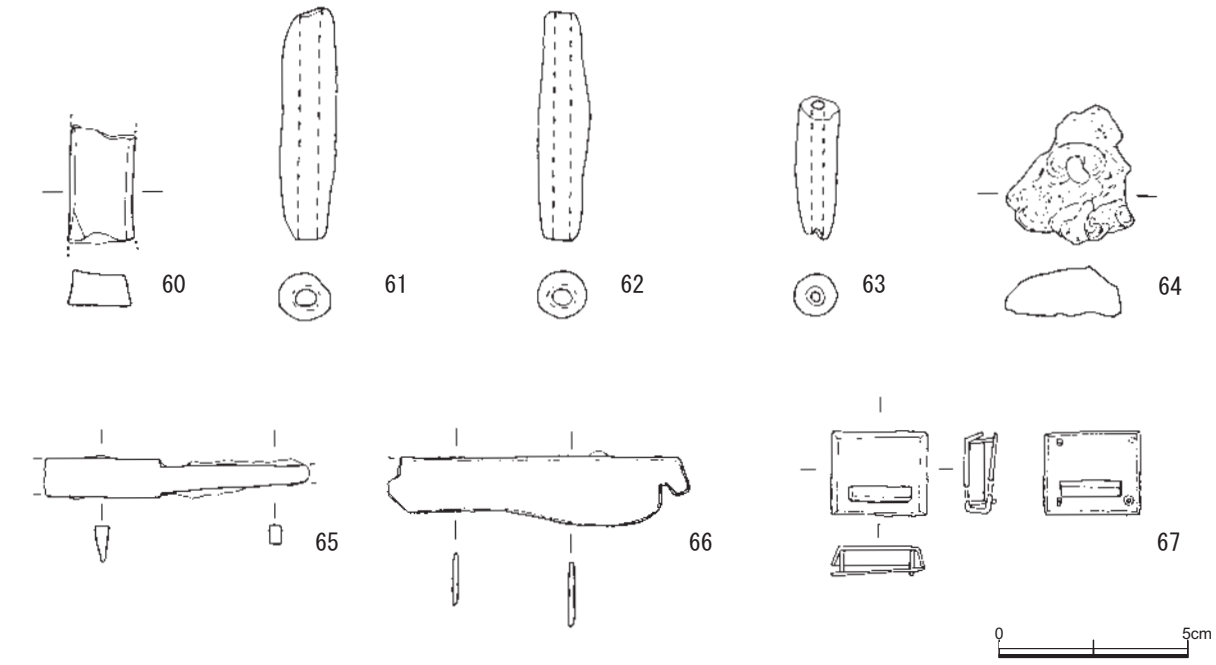


第18図　５号住居跡出土遺物実測図（２）



第19図　５号住居跡出土遺物実測図（３）





第20図　５号住居跡出土遺物実測図（４）

5 号住居跡出土遺物観察表 (1)

番号	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	色　調	焼成	胎　　土	残存率	備　　考
1	坏	(13.0)	3.5	-	灰橙褐色	やや悪	石英、角閃石、雲母、赤色粒	35%	覆土、内面に油脂状黒斑少量
2	坏	13.8	3.6	-	橙褐色	普通	石英、角閃石 、長石、微砂粒	70%	図示、内面に油脂状黒斑少量
3	坏	(13.5)	3.5	-	橙色	普通	石英、角閃石、微砂粒	55%	図示、磨滅あり
4	坏	12.8	3.5	-	橙褐色	普通	石英、角閃石	95%	図示
5	坏	12.9	3.4	-	橙褐色	普通	石英、雲母	95%	図示、内外面に油脂状黒斑
6	坏	(13.0)	(3.7)	-	灰赤褐色	良好	石英、角閃石（精良）	図示 60%	図示
7	坏	(11.8)	(3.1)	-	灰褐色	普通	石英、角閃石 、微砂粒	図示 20%	覆土、内面に煤付着
8	坏	(12.0)	(3.5)	-	橙褐色	普通	石英、角閃石 、雲母、微砂粒	図示 30%	覆土、内面に油脂状黒斑
9	坏	(12.8)	(3.6)	-	にぶい赤褐色	普通	石英、雲母	図示 35%	図示
10	坏	(12.8)	(3.5)	-	暗橙褐色	普通	石英、角閃石、微砂粒	図示 35%	カマド図示、内面に油脂状黒斑少量
11	坏	(12.4)	(3.2)	-	暗褐色	普通	角閃石、微砂粒	図示 40%	図示、内面に油脂状黒斑少量
12	坏	13.4	3.3	-	橙褐色	普通	石英、角閃石、微砂粒	90%	図示
13	坏	(12.6)	(3.3)	-	灰赤褐色	良好	石英、長石、角閃石	図示 30%	図示、口縁部に煤付着
14	坏	(13.0)	(3.3)	-	灰橙褐色	良好	石英、角閃石（精良）	図示 45%	覆土
15	坏	(13.5)	3.0	-	灰橙褐色	良好	石英、角閃石、微砂粒	図示 20%	覆土
16	坏	(13.3)	3.5	-	暗灰赤褐色	普通	石英、長石、角閃石、微砂粒	35%	覆土、口縁部に油脂状黒色物付着
17	坏	(13.5)	3.8	-	明赤褐色	良好	石英、角閃石、微砂粒	35%	図示
18	坏	(14.9)	《3.7》	-	にぶい橙褐色	普通	石英、角閃石	図示 40%	覆土
19	坏	15.7	4.3	-	灰橙褐色	普通	石英、角閃石、パミス、微砂粒	75%	図示、内面に油脂状黒斑
20	坏	(15.4)	(3.9)	-	暗灰褐色	普通	石英、角閃石、雲母、微砂粒	図示 20%	図示
21	坏	(14.7)	(2.8)	-	橙褐色	普通	石英、角閃石、チャート	図示 35%	覆土、内面放射状暗文
22	坏	(15.0)	3.0	-	橙褐色	良好	石英、角閃石、チャート、雲母	35%	カマド図示、内面放射状暗文
23	坏	15.5	3.4	-	暗褐～橙褐色	普通	石英、角閃石、雲母、微砂粒	50%	覆土、内面螺旋＋放射状暗文、在地産
24	坏	(14.5)	3.0	10.7	暗褐～橙褐色	良好	微砂粒	70%	図示、内面螺旋＋放射状暗文、在地産
25	須恵坏	-	《1.6》	(7.1)	灰色	普通	石英、長石、片岩、細礫	図示 35%	図示、底部手持ち篦ケズリ、末野産
26	須恵坏	(12.7)	3.7	(8.2)	にぶい灰色	普通	石英、チャート、海綿骨針	25%	覆土、底部全面回転篦ケズリ＋面取り、南比企産
27	須恵坏	(12.8)	3.5	7.0	青灰～灰褐色	普通	石英、長石、海綿骨針	50%	図示、底部全面回転篦ケズリ、南比企産
28	須恵坏	(13.2)	3.6	(7.8)	明灰色	良好・堅緻	石英、長石、海綿骨針	図示 10%	覆土、底部全面回転篦ケズリ、南比企産
29	須恵坏	-	《1.4》	(6.5)	明灰色	普通	石英、長石、片岩、黒色粒	図示 20%	覆土、底部回転糸切り未調整、末野産
30	須恵坏	-	《1.3》	(6.4)	明灰色	普通	石英、長石、黒色粒	図示 50%	覆土、底部回転糸切り未調整、末野産
31	須恵坏	-	《3.6》	(8.8)	灰色	普通	石英、長石、片岩、細礫	図示 30%	図示、底部全面回転篦ケズリ、末野産
32	須恵坏	(13.0)	3.7	(7.0)	灰褐色	普通	石英、長石、海綿骨針	図示 20%	図示、底部全面回転篦ケズリ、南比企産
33	須恵坏	(13.8)	3.8	(7.3)	灰色	普通	石英、長石、片岩、黒色粒	図示 25%	図示、底部回転糸切り未調整、体部下端手持ち篦ケズリ、末野産
34	須恵坏	(15.1)	3.7	(10.6)	青灰色	良好・堅緻	石英、長石、海綿骨針	40%	カマド掘り方、底部全面回転篦ケズリ＋面取り、南比企産
35	須恵高台付坏	(11.8)	3.1	9.9	にぶい灰色	良好	長石、微砂粒、黒色の吹き出し	60%	図示、末野産
36	須恵コップ型	-	《2.3》	(7.8)	にぶい灰色	良好	石英、長石、チャート	図示 40%	覆土、底部浅い全面回転篦ケズリ、外面降灰釉、南比企産？
37	須恵高台埦	(17.2)	7.0	(10.3)	暗灰色	普通	石英、長石、片岩（粗い）	図示 40%	図示、末野産
38	須恵高台埦	-	《2.9》	(10.8)	暗灰色	普通	石英、長石、赤色粒	図示 15%	覆土、末野産
39	須恵皿	12.3	2.3	6.4	明灰色	良好	石英、長石、片岩	100%	図示、底部回転糸切り未調整、末野産
40	須恵蓋	(8.5)	《1.5》	-	灰茶褐色	普通	石英、長石	図示 25%	覆土、末野産
41	須恵蓋	(17.7)	《1.8》	-	灰橙褐色	不良	石英、チャート、片岩、赤色粒	図示 10%	覆土、末野産
42	須恵蓋	鈕径3.8cm	-	-	淡灰色	普通	石英、長石、黒色粒	図示 80%	覆土、末野産
43	須恵蓋	(15.8)	《2.0》	-	暗青灰色	普通	石英、長石、片岩	図示 10%	覆土、末野産
44	須恵蓋	(16.8)	《2.1》	-	明灰色	普通	石英、長石、片岩、黒色粒	図示 10%	覆土、末野産
45	須恵甕	(16.7)	《4.4》	-	灰黒色	良好	長石 、片岩 、細礫	図示 20%	覆土、内外面降灰釉、末野産
46	須恵甕	-	-	-	暗灰色	良好	長石 、片岩 、細礫	破片	カマド図示、外面平行叩き、内面あて具痕、末野産
47	須恵甕	-	-	-	灰褐色	やや悪	石英、長石	破片	図示、外面平行叩き、内面回転ナデ、末野産
48	須恵甕	-	-	-	淡灰色	良好・堅緻	長石粒微量（精良）	破片	覆土、外面平行叩き、内面青海波叩き、群馬（西毛産）か
49	須恵甕	-	-	-	灰褐色	やや悪	石英、長石	破片	覆土、外面平行叩き、内面あて具痕、末野産
50	須恵甕	-	-	-	茶褐色	普通	石英、長石、チャート	破片	図示、外面平行叩き＋回転ナデ内面青海波叩き、末野産

５号住居跡出土遺物観察表（2）

51	甕	14.8	《7.3》	-	橙褐色	普通	微砂粒	図示 80%	図示
52	甕	(14.8)	《7.4》	-	暗赤褐色	普通	石英、角閃石、チャート、微砂粒	図示 45%	図示
53	台付甕	-	-	-	灰橙褐色	良好	石英、角閃石、白色粒、微砂粒	図示 90%	覆土
54	甕	(21.7)	《5.4》	-	灰橙色	普通	石英、角閃石、チャート、片岩	図示 20%	図示
55	甕	(22.7)	《11.5》	-	橙褐色	普通	石英、角閃石、長石、パミス、微砂粒	図示 20%	カマド図示
56	甕	(23.6)	《6.4》	-	橙褐色	普通	石英、角閃石、長石、雲母、微砂粒	図示 25%	カマド図示
57	甕	-	《3.2》	(4.5)	黄赤褐色	良好	微砂粒	図示 40%	図示
58	甕	-	《2.0》	5.8	灰橙褐色	普通	石英、角閃石、チャート、微砂粒	図示 70%	覆土
59	甕	-	《1.8》	7.0	黄褐色	普通	石英、長石、角閃石、微砂粒	図示 55%	覆土
60	須恵甑	-	-	-	淡灰褐色	普通	石英、片岩、微砂粒	破片	覆土、底部穿孔部、末野産
61	土錘	長さ6.0cm	幅1.4cm	孔径0.5cm	重さ10.5g	普通	微砂粒	100%	図示
62	土錘	長さ6.0cm	幅1.4cm	孔径0.5cm	重さ 8.5g	普通	石英、角閃石、微砂粒	100%	図示
63	土錘	長さ3.7cm	幅1.1cm	孔径0.3cm	重さ 4.9g	普通	長石、赤色粒	60%	覆土
64	鉄滓	長さ3.6cm	幅3.3cm	厚さ1.3cm	重さ20.0g	磁着度・弱			覆土
65	刀子	長さ7.0cm	幅1.1cm	厚さ0.4cm	重さ 5.9g			50%	図示、茎部に木質残存
66	不明鉄製品	長さ7.8cm	幅1.8cm	厚さ0.2cm	重さ 7.2g				カマド図示
67	巡方	長さ2.5cm	幅2.2cm	厚さ0.8cm	重さ 8.6g			100%	覆土、銅製

壁は垂直に掘り込まれ、床面はほぼ平坦である。確認面からの深さは、43cmを測る。

カマドは、南壁を削り出し構築されていた。袖はもたず、燃焼部等が外部へ張り出すタイプである。燃焼部の長さは88cm、最大幅は60cmである。

ピットが、南コーナー付近で検出された。平面形態は楕円形で、長軸42cm、短軸31cmを測り、床面からの深さは24cmである。

遺物は、土師器の坏・甕・台付甕、須恵器の坏などがある。

【８号竪穴住居跡】

Ａ－２グリッドに位置する。

大半が調査区域外にあり、検出されたのは東コーナー部のみである。確認できたのは、東西1.41m、南北0.71mの範囲である。

壁はほぼ垂直に掘り込まれ、床面は若干の凹凸をもつ。確認面からの深さは、45cmを測る。

カマド・周溝・ピット等は、不明である。

遺物は、土師器の坏などがあった。

【１号掘立柱建物跡】

Ｂ－２・Ａ－３～Ｃ－３・Ｂ－４グリッドにかけて位置する。

３間×２間の側柱建物であり、桁行6.54m、梁行4.66mを測る。主軸方位は、N-49°-Wである。柱間は、桁行で1.64m、梁行1.55mである。

各柱穴の平面形態は、円形を主体とする。直径62～81cm、深さ31～48cmを測る。

遺物は、２号ピットの覆土から土師器の甕が出土した。

【１号井戸跡】

Ｃ－１，Ｃ－２，Ｄ－１，Ｄ－２グリッドにかけて位置する。

７号住居跡・１号特殊遺構と重複し、切合い関係から、７号住居跡＞本遺構＞１号特殊遺構の順に古いことが判明している。

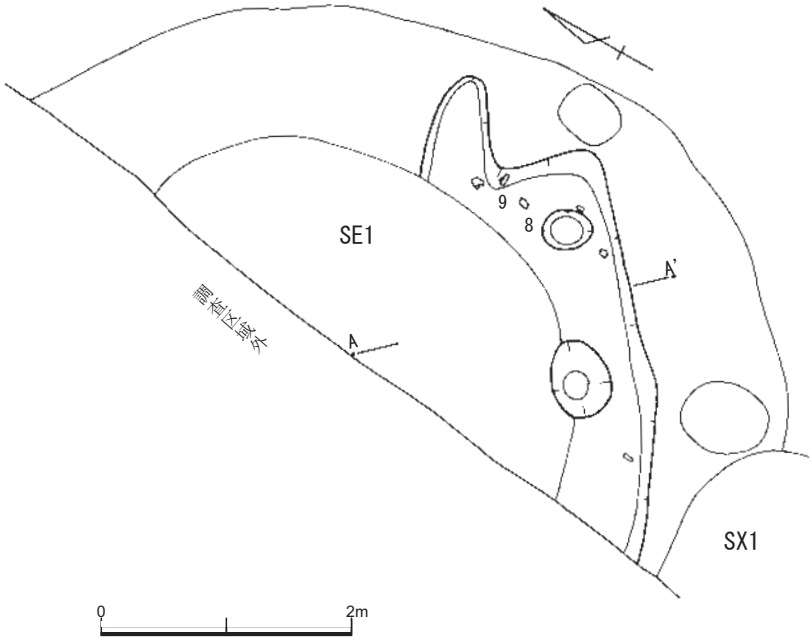
北部が調査区域外にあり、確認できたのは南半部である。

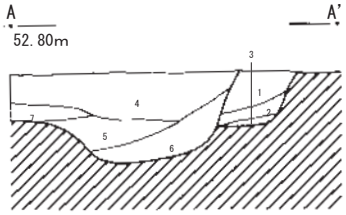
平面形態は円形で、直径6.65mを測る。壁は、地表面より30cmの深さまでは緩やかに落ち込み、それ以下は角度をもち掘り込まれる。第28図では椀形の断面図を示したが、地下1.8m付近で調査区の壁に接してしまったため、堀り下げは底面まで至らなかった。よって、深さも不明である。

遺物は、土師器の甕、台付甕・甑、須恵器の蓋・坏・高台埦・皿・甕、灰釉長頸瓶、緑釉皿、青磁埦、土錘などがあった。

【２号井戸跡】

Ｄ－５グリッドに位置する。１号溝跡とわずかに重複する。

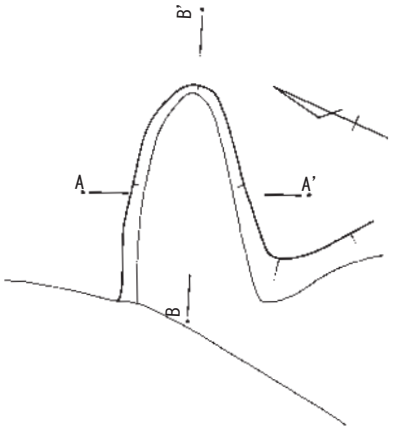


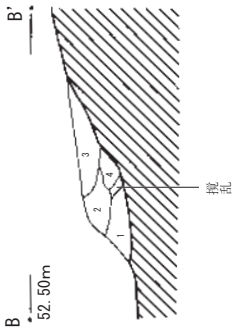


7号住居跡土層説明

1	暗褐色土	ローム粒子・ローム小ブロック多量、砂粒少量含む。
2	黒褐色土	ローム粒子多量、焼土粒微量含む。粘性なし。しまり良。
3	暗茶褐色土	ローム粒子多量、炭化物粒微量含む。粘性なし。しまり弱。
4	暗褐色土	ローム粒子、ロームブロック少量、砂粒・小砂利（1～3cm）多量含む。しまり強。
5	黒褐色土	ローム粒子、ロームブロック微量、小砂利少量含む。しまり良。
6	暗褐色土	ローム粒子多量、焼土粒・炭化物粒微量含む。しまり良。
7	暗褐色土	ローム粒子微量、子砂利少量含む。しまり良。

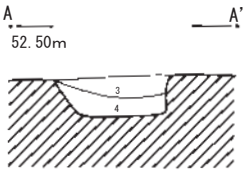
第21図　７号住居跡実測図



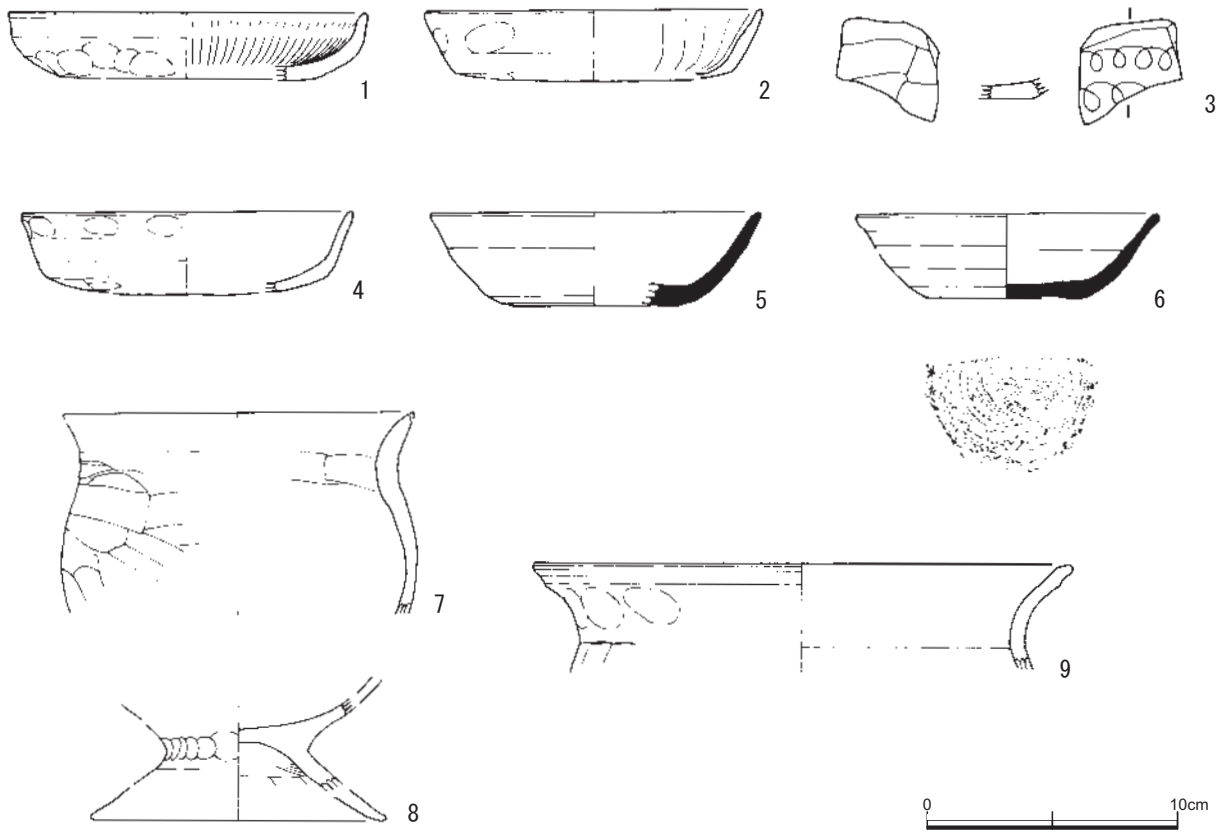


7号住居跡カマド土層説明

1	暗茶褐色土	ローム粒、焼土粒少量含む。
2	暗茶褐色土	ローム粒多量、ロームブロック少量含む。
3	暗灰褐色土	灰色粘土多量、ローム粒少量含む。
4	暗灰褐色土	灰色粘土多量、焼土粒少量含む。



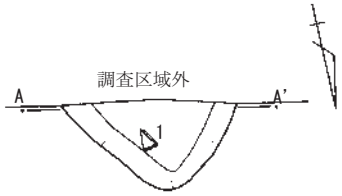
第22図　７号住居跡カマド実測図



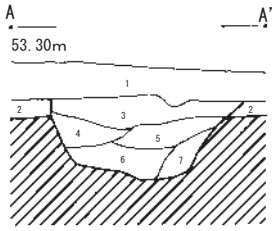
第23図　７号住居跡出土遺物実測図

７号住居跡出土遺物観察表

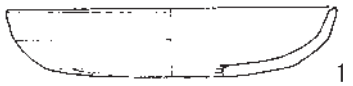
番号	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	色　調	焼成	胎　　土	残存率	備　　考
1	坏	(13.9)	2.6	(10.0)	暗橙褐色	普通	石英、長石、微砂粒	図示 20%	図示、内面放射状暗文、油脂状黒斑あり
2	坏	(13.0)	(2.8)	(10.8)	橙褐色	普通	雲母少量（精良）	図示 10%	覆土、内面放射状暗文
3	坏	-	-	-	灰赤褐～黒褐	良好	石英、角閃石、微砂粒	破片	覆土、内面螺旋暗文在地産
4	坏	(12.8)	(3.3)	-	明橙褐色	普通	石英、微砂粒	図示 25%	覆土
5	須恵坏	(12.8)	3.7	(6.5)	明灰色	やや悪	石英、長石、片岩、黒色粒	図示 15%	覆土、底部周辺回転篦ケズリ＋面取り、磨滅あり、末野産
6	須恵坏	(11.7)	3.3	6.0	淡灰色	普通	石英、長石、片岩、黒色粒	45%	覆土、底部回転糸切り未調整、磨滅あり、末野産
7	台付甕	(13.5)	《8.0》	-	灰橙褐色	普通	石英、角閃石、微砂粒	図示 20%	下層
8	台付甕	-	-	-	にぶい橙褐色	普通	石英、長石、片岩、微砂粒	図示 80%	上層
9	甕	(20.8)	《4.3》	-	暗赤褐色	普通	石英、雲母、微砂粒	図示 15%	図示



8号住居跡土層説明
1　暗褐色土　　耕作土。
2　暗茶褐色土　ローム粒少量、パミス微量含む。
3　暗褐色土　　ローム粒多量、焼土粒微量含む。
4　黒褐色土　　ローム粒少量、ロームブロック微量含む。
5　暗褐色土　　ローム粒少量、ロームブロック微量含む。
6　暗茶褐色土　ローム粒・ロームブロック多量含む。
7　黒褐色土　　ローム粒・ロームブロック少量含む。



第24図　８号住居跡実測図



第25図　８号住居跡出土遺物実測図

８号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	色　調	焼成	胎　　土	残存率	備　　考
1	坏	(12.8)	(2.7)	-	にぶい橙褐色	普通	石英、角閃石	図示 15%	図示、内面に油脂状黒斑

平面形態は円形で、直径2.10mを測る。壁は、角度をもち掘り込まれる。地下1.4m付近で堀り下げを中止したので、底面まで至らなかった。よって、深さ及び底面の形状等は不明である。

遺物は、土師器の小皿、須恵器の坏・高台埦・長頸瓶・甕などがあった。

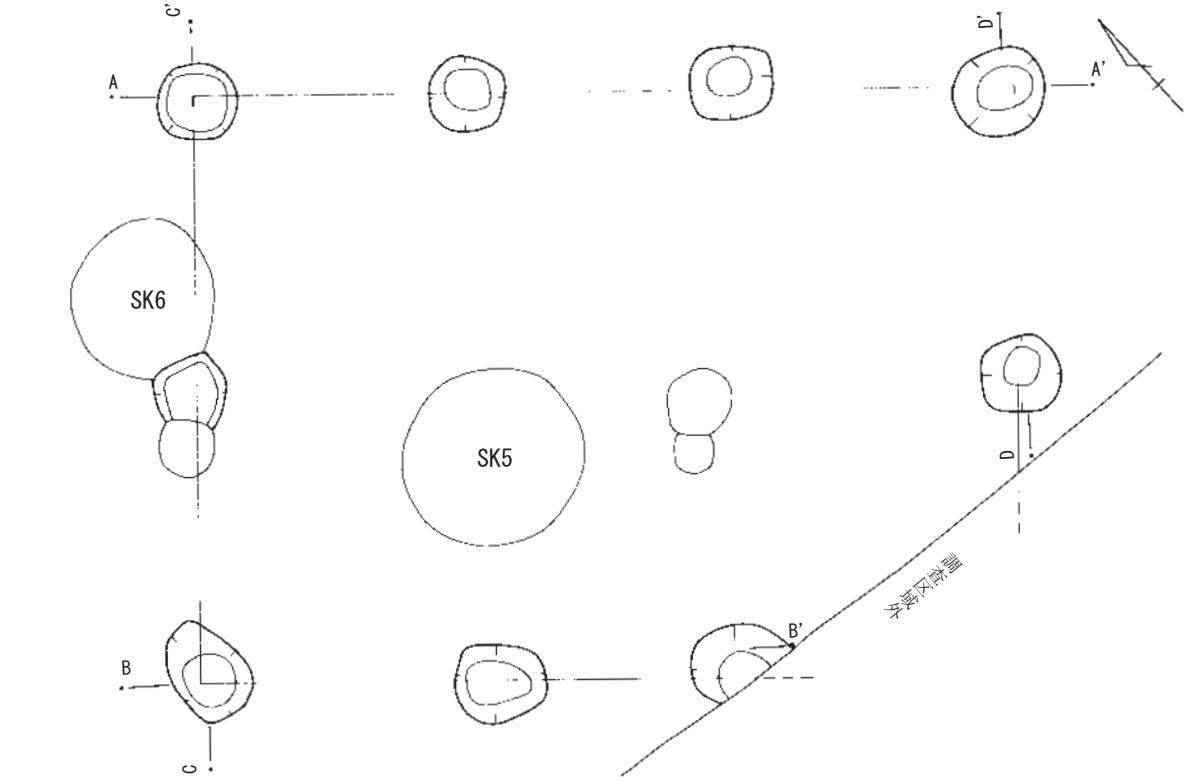
【１号特殊遺構】

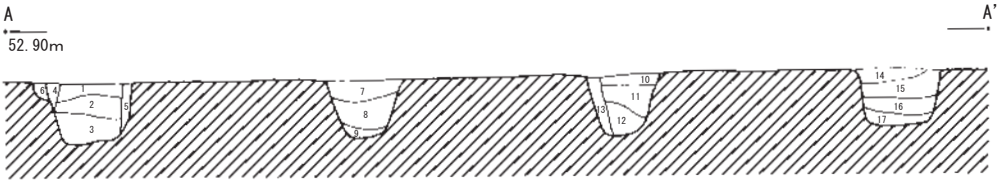
Ｂ－１～Ｃ－１グリッドに位置する。５号住居跡・１号井戸と重複し、切り合い関係から本遺構が最も新しいことが判明している。

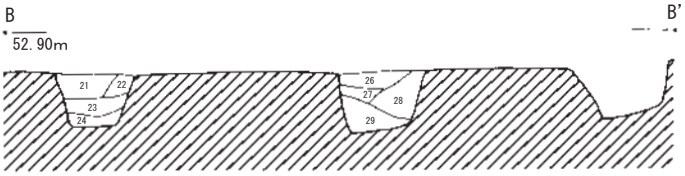
北半部が調査区域外にあるが、平面形態は隅丸方形を呈すると想定される。南北2.90m、東西1.90m以上を測る。

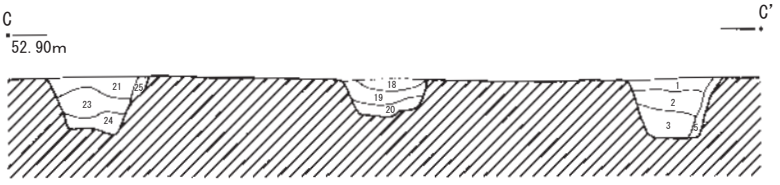
北壁はほぼ垂直に、東壁から南壁にかけては若干オーバーハング気味に掘り込まれる。確認面からの深さは、1.55mである。床面は中心に向かいわずかに下がり、床面上に２基の土坑が存在する。１号土坑は、平面楕円形で、長軸109cm、短軸75cmを測る。底面からの深さは12cmである。２号土坑は、平面不整円形で、直径85cmを測る。底面からの深さは63cmである。

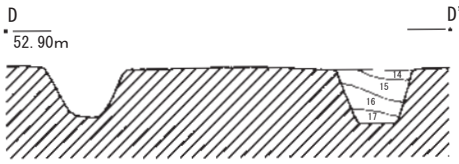
遺物は、土師器の坏・小型甕、須恵器の蓋・坏・甕・鉢、不明鉄製品などがあった。











1号掘立柱建物跡土層説明

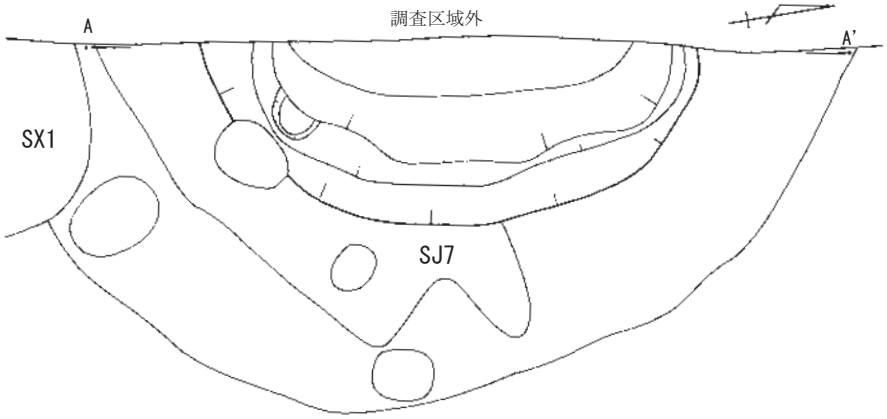
1	暗茶褐色土	ローム粒少量含む。
2	黒褐色土	ローム粒・ロームブロック微量含む。
3	黒色土	ローム粒少量、ロームブロック微量含む。
4	暗茶褐色土	ローム粒多量含む。
5	茶褐色土	ローム粒多量、ロームブロック少量含む。
6	茶褐色土	ローム粒多量含む。
7	暗茶褐色土	ローム粒微量含む。
8	黒褐色土	ローム粒微量含む。
9	黒色土	ローム粒少量、ロームブロック微量含む。
10	暗茶褐色土	ローム粒少量、ロームブロック微量含む。
11	黒褐色土	ローム粒少量、ロームブロック微量含む。
12	黒褐色土	ローム粒多量、ロームブロック少量含む。
13	茶褐色土	ローム粒少量、ロームブロック微量含む。
14	黒色土	ローム粒微量含む。
15	黒褐色土	ローム粒・ロームブロック微量含む。
16	黒色土	ローム粒・ロームブロック少量含む。
17	茶褐色土	ローム粒多量、ロームブロック少量含む。
18	暗茶褐色土	ローム粒微量含む。
19	黒褐色土	ローム粒少量含む。
20	黒色土	ローム粒多量、ロームブロック少量含む。
21	黒褐色土	ローム粒微量含む。
22	黒褐色土	ローム粒少量含む。
23	黒褐色土	ローム粒多量含む。
24	暗茶褐色土	ローム粒多量、ロームブロック少量含む。
25	暗黄褐色土	ローム粒主体。
26	黒褐色土	ローム粒少量含む。
27	黒色土	ローム粒微量含む。
28	黒色土	ローム粒・ロームブロック少量含む。
29	黒色土	ローム粒多量、ロームブロック微量含む。

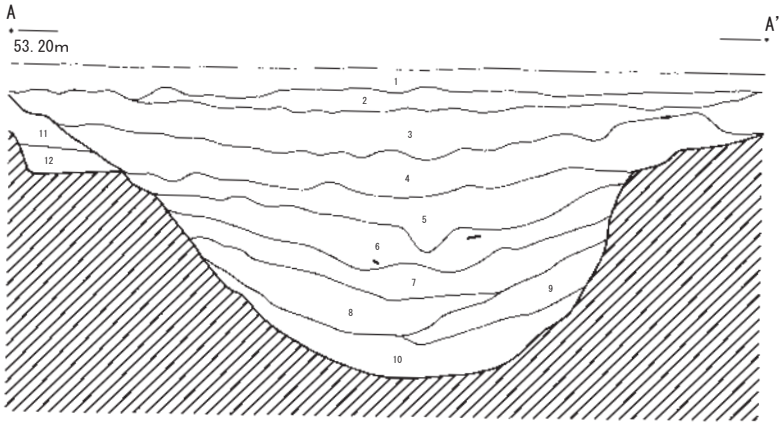
第26図　１号掘立柱建物跡実測図

第27図　１号掘立柱建物跡出土遺物実測図

１号掘立柱建物跡出土遺物観察表

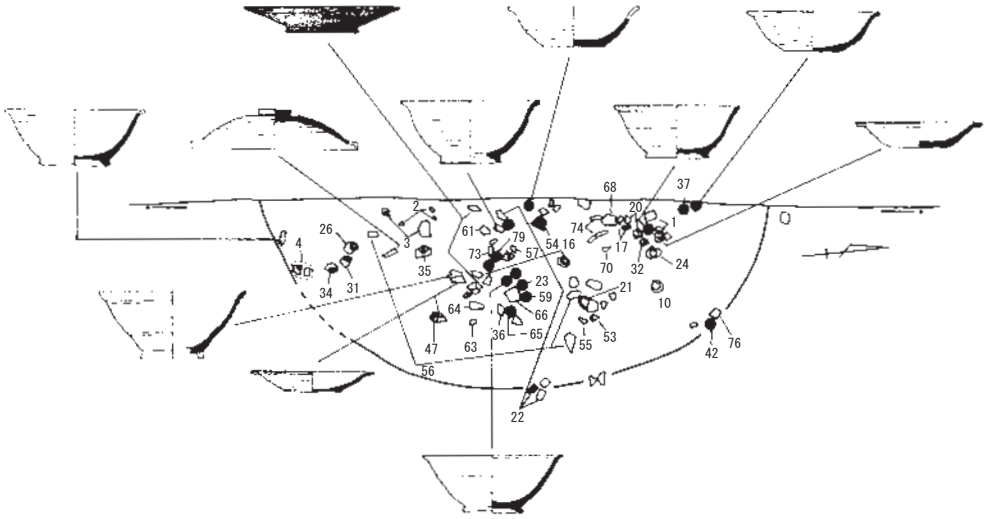
番号	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	色　調	焼成	胎　　土	残存率	備　　考
1	甕	(18.7)	《4.2》	-	明橙褐色	普通	石英、長石、角閃石、微砂粒	図示 15%	P-2 覆土



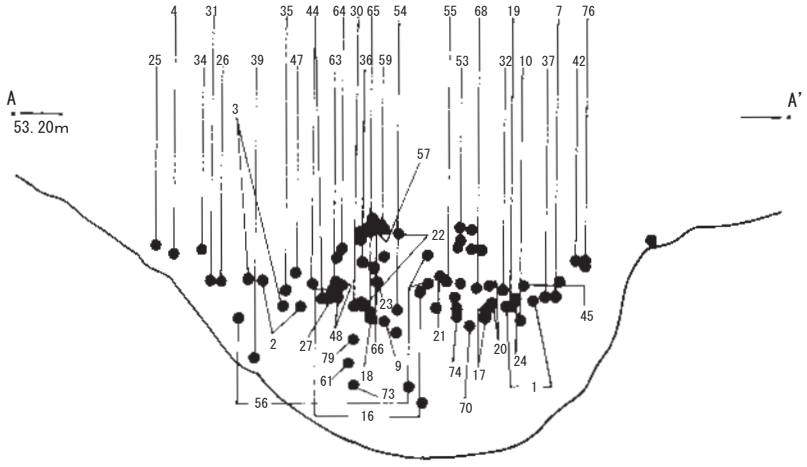


1号井戸跡土層説明
1　暗褐色土　　ローム粒微量含む。
2　黒褐色土　　ローム粒・パミス微量含む。
3　暗茶褐色土　ローム粒・焼土粒微量含む。
4　茶褐色土　　ローム粒少量、焼土粒・炭化粒微量含む。
5　暗茶褐色土　ローム粒少量、焼土粒・炭化粒微量含む。
6　茶褐色土　　ローム粒少量、焼土粒・炭化粒微量含む。
7　茶褐色土　　ローム粒少量、ロームブロック・焼土粒・炭化粒微量含む。
8　暗茶褐色土　ローム粒少量、焼土粒・炭化粒微量含む。
9　暗黄褐色土　ローム粒多量含む。
10　茶褐色土　　ローム粒多量、ロームブロック少量含む。粘性やや強い。
11　茶褐色土　　ローム粒多量、ロームブロック微量含む。(7号住居跡)
12　黒褐色土　　ローム粒少量含む。(7号住居跡)

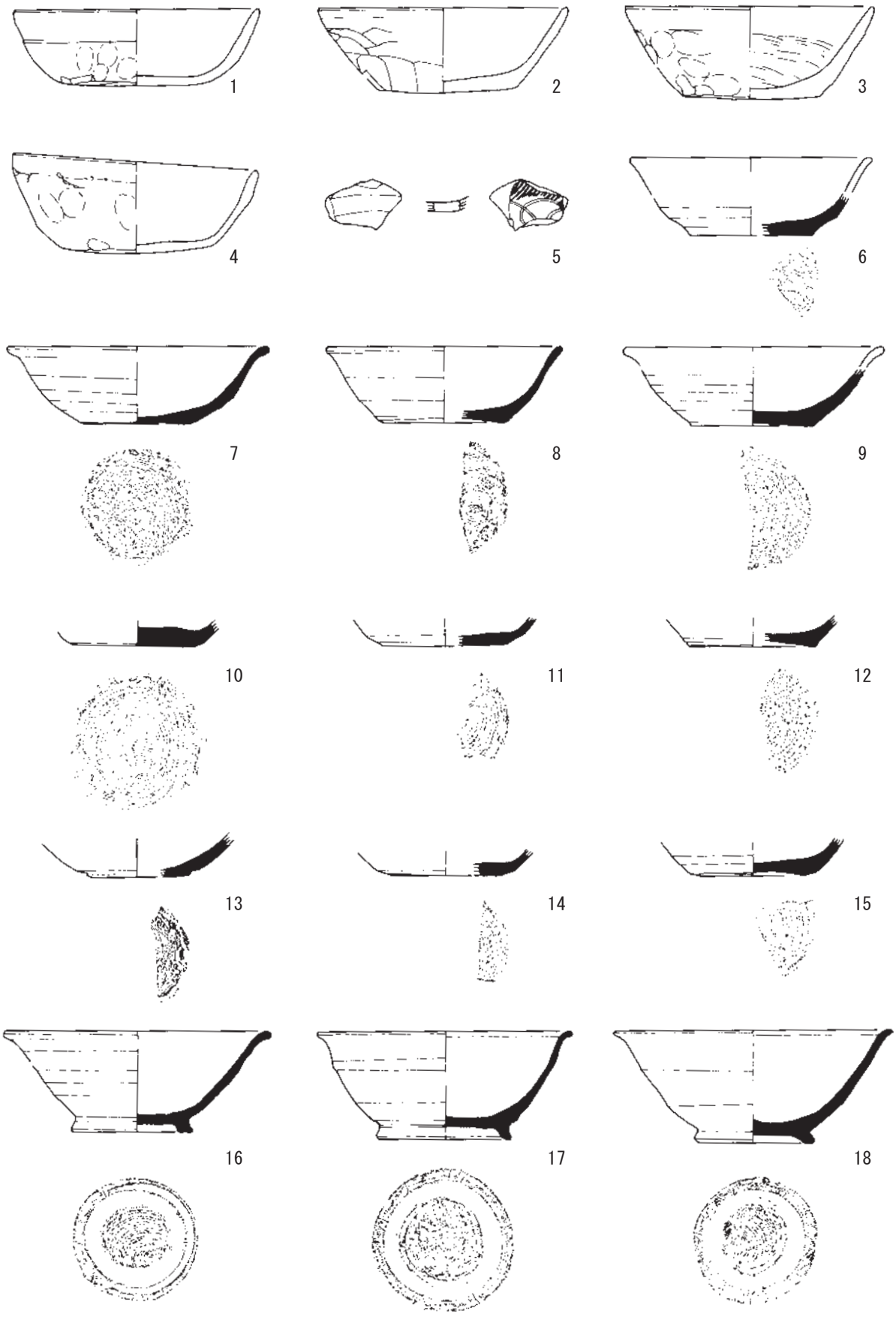
第28図　１号井戸跡実測図



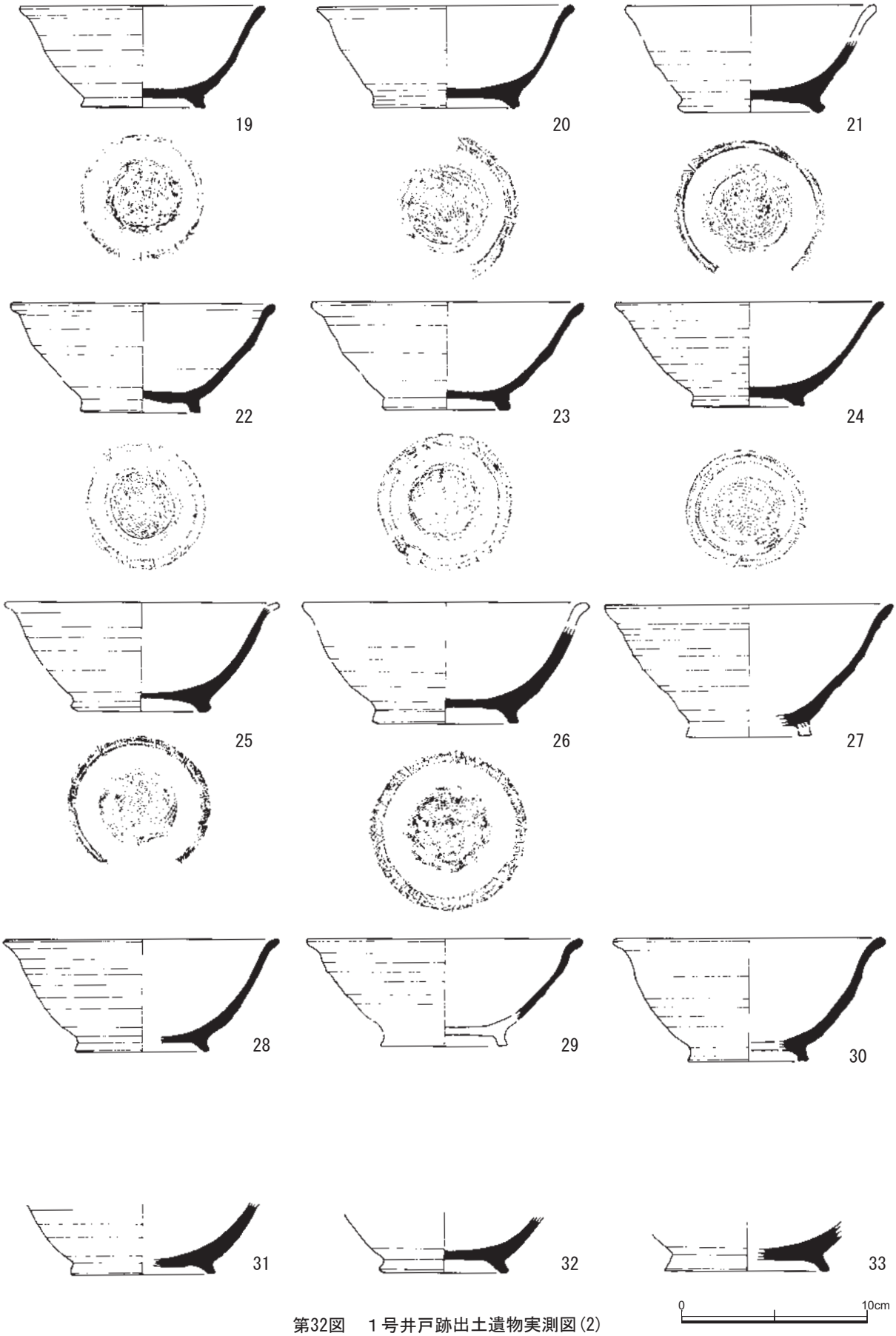
第29図　１号井戸跡遺物分布状況図



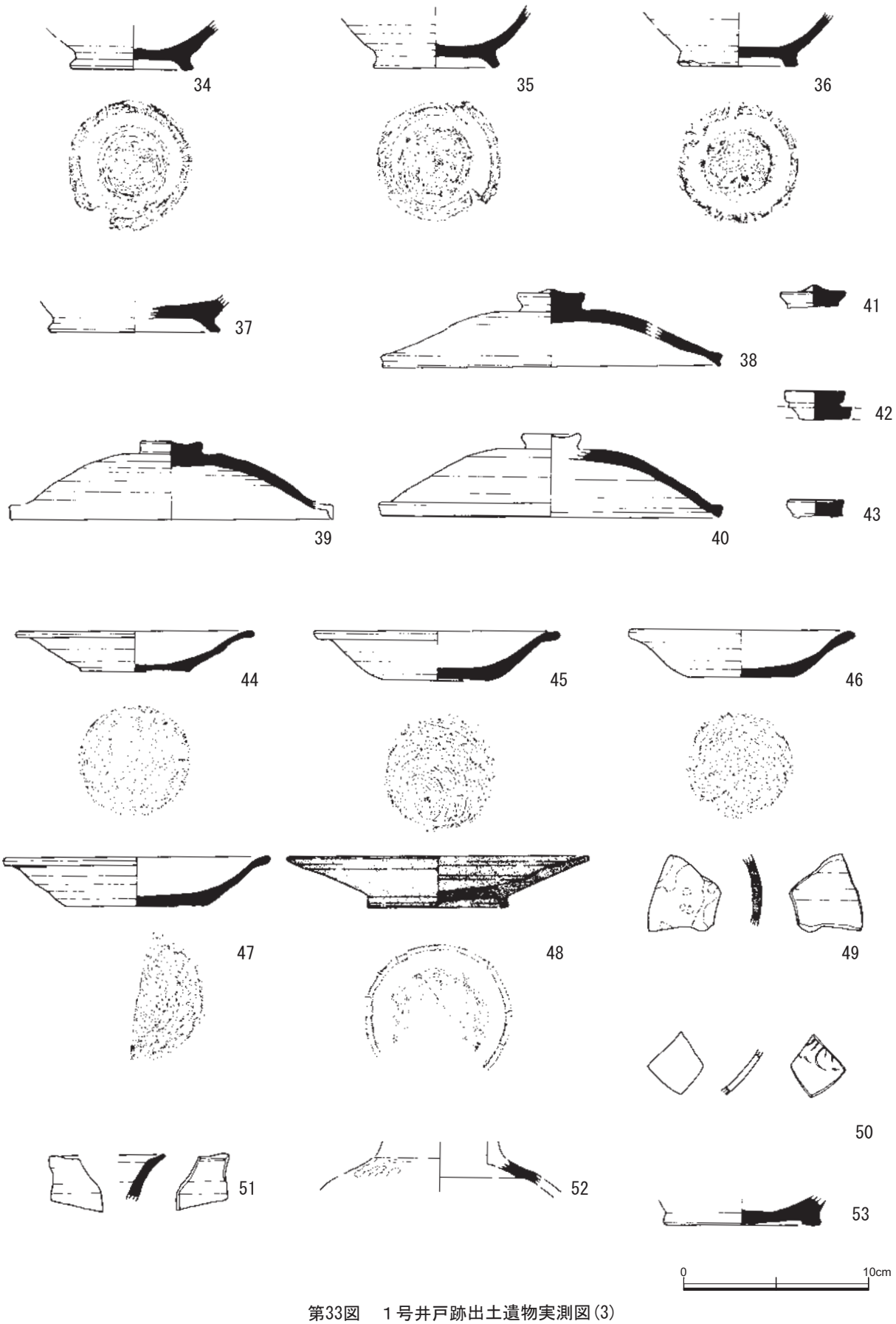
第30図　１号井戸跡遺物垂直分布図



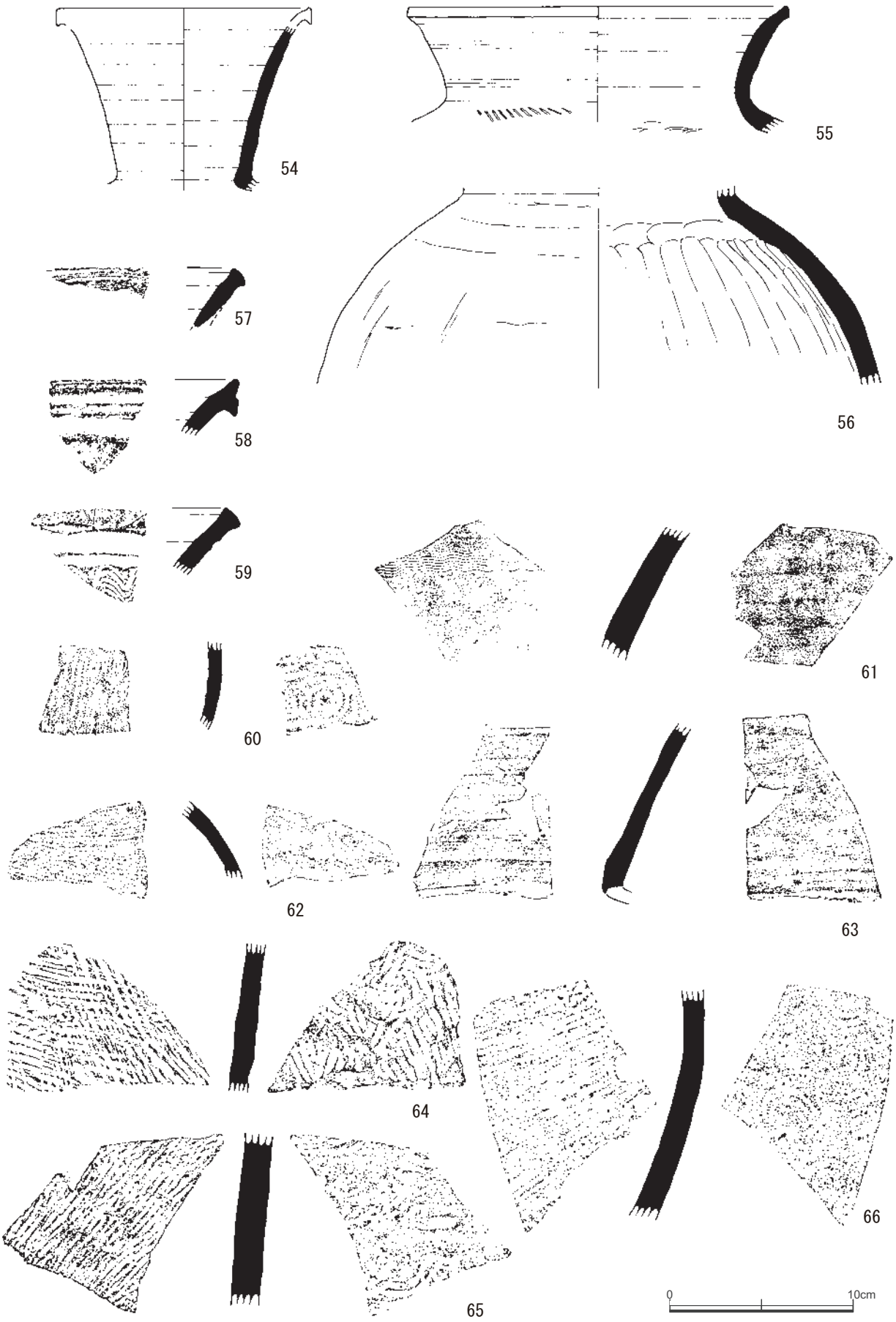
第31図　１号井戸跡出土遺物実測図(1)



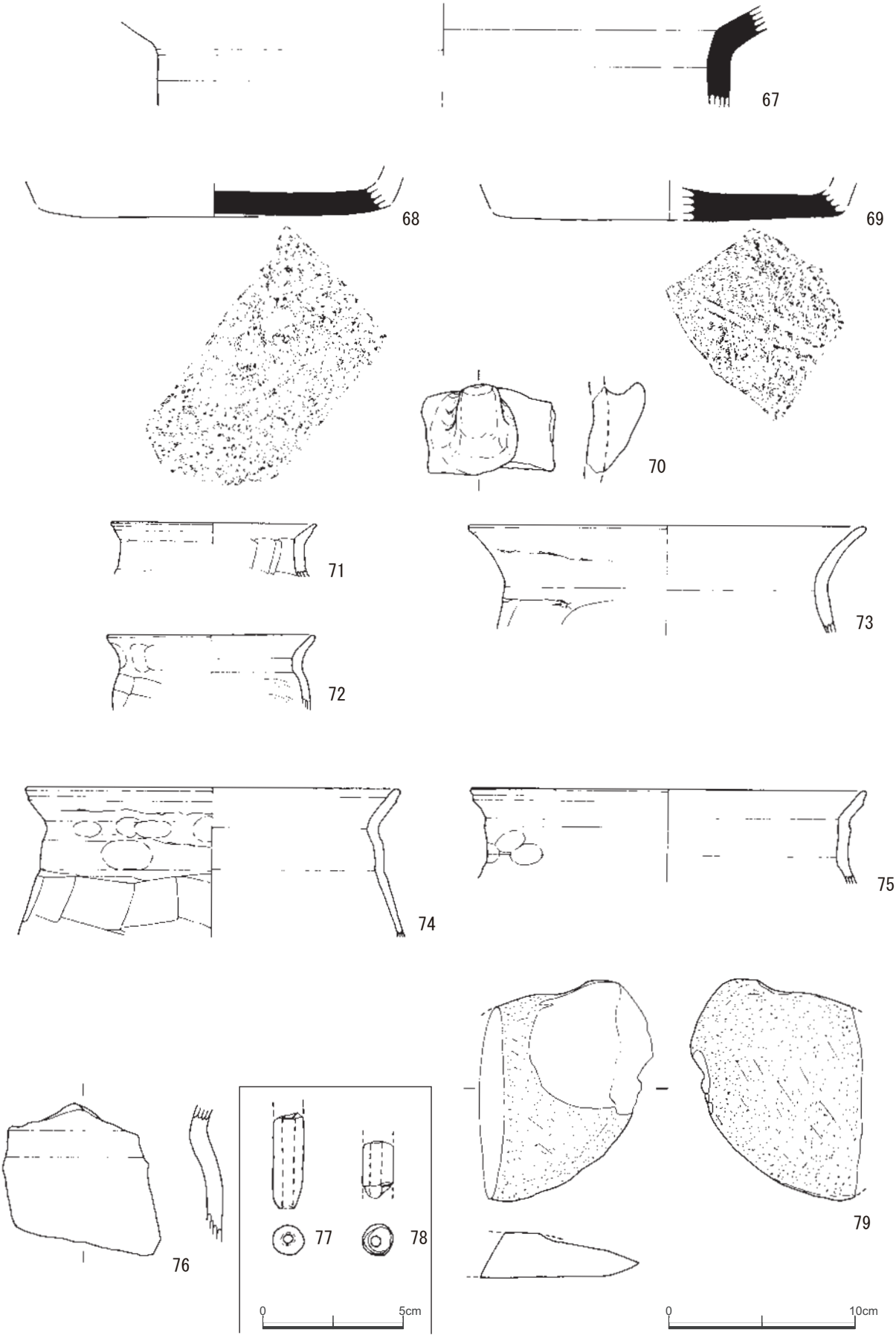
第32図　１号井戸跡出土遺物実測図(2)



第33図　１号井戸跡出土遺物実測図(3)



第34図　１号井戸跡出土遺物実測図(4)



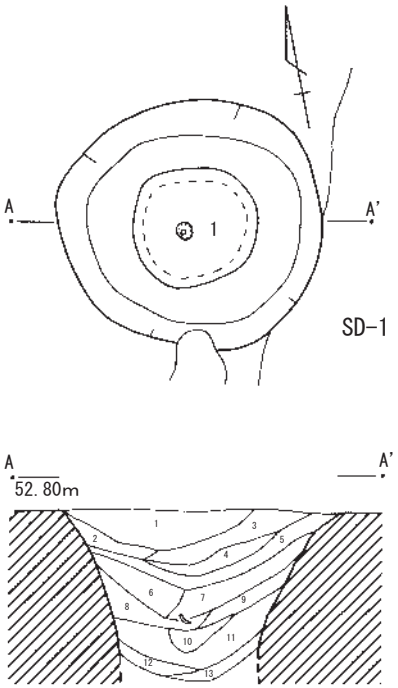
第35図　１号井戸跡出土遺物実測図(5)

1号井戸跡出土遺物観察表（1）

番号	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	色　調	焼成	胎　　土	残存率	備　　考
1	坏	(12.6)	4.0	(7.6)	橙褐～灰褐色	普通	石英、長石、角閃石、雲母、微砂粒	50%	図示、歪みあり
2	坏	(12.8)	4.5	7.1	灰赤褐色	普通	石英、角閃石、雲母、砂粒多、ザラつく	60%	図示
3	坏	(12.8)	4.9	7.0	赤褐色	普通	石英、角閃石、雲母、微砂粒	60%	図示
4	坏	12.6	4.9	7.8	茶褐色	やや悪	石英、角閃石、チャート、微砂粒	75%	図示上層、歪みあり
5	坏	-	-	-	明橙褐色	良好	精良	破片	覆土中層、内面螺旋暗文＋放射状暗文、畿内産の可能性あり
6	須恵坏	-	《2.2》	(6.4)	明灰色	普通	石英、長石、片岩	図示 20%	覆土中層、底部回転糸切り未調整、末野産
7	須恵坏	13.4	4.1	6.0	灰橙褐色	酸化焔	石英、長石、赤色粒、微砂粒	95%	図示、底部回転糸切り未調整、末野産
8	須恵坏	(12.0)	4.0	(6.4)	明灰色	普通	石英、長石、黒色粒	図示 25%	覆土上層、底部回転糸切り未調整、末野産
9	須恵坏	-	《3.0》	(6.3)	灰茶褐色	酸化焔	微砂粒、赤色粒	図示 30%	図示、底部回転糸切り未調整、末野産
10	須恵坏	-	《1.5》	6.2	灰色	良好	石英、長石、片岩、細礫	図示 90%	図示、底部回転糸切り未調整、末野産
11	須恵坏	-	《1.5》	(6.4)	灰色	普通	長石、片岩	図示 20%	覆土中層、底部回転糸切り未調整、末野産
12	須恵坏	-	《1.6》	(6.5)	淡灰色	普通	微砂粒、赤色粒（粗い）	図示 30%	覆土上層、底部回転糸切り未調整、末野産
13	須恵坏	-	《2.3》	(5.4)	灰色	普通	石英、長石、赤色粒	図示 25%	覆土上層、底部回転糸切り未調整、切り離し痕が二重、末野産
14	須恵坏	-	《1.4》	(5.6)	明灰色	普通	長石、黒色微粒（精良）	図示 30%	覆土上層、底部回転糸切り未調整、南比企産？
15	須恵坏	-	《1.9》	(6.4)	明灰色	普通	長石、片岩	図示 20%	覆土上層、底部回転糸切り未調整、末野産
16	須恵高台埦	(13.7)	5.4	6.2	明灰色	普通	長石、片岩、黒色粒（粗い）	50%	図示中層、末野産
17	須恵高台埦	13.0	6.8	5.7	にぶい暗紫色	良好	チャート、白色粒、片岩	60%	図示、末野産
18	須恵高台埦	14.3	5.8	6.0	灰褐色	不良	石英、片岩、白色粒	90%	図示、末野産
19	須恵高台埦	12.8	5.4	6.4	灰黒色	普通	石英、長石、片岩、黒色粒（粗い）	75%	図示中層＋上層、末野産
20	須恵高台埦	13.3	5.5	(7.5)	明灰色	普通	石英、黒色粒（粗い）	60%	図示、末野産
21	須恵高台埦	-	《3.9》	7.8	明灰色	普通	石英、長石、黒色粒	70%	図示、末野産
22	須恵高台埦	(13.8)	5.8	6.3	灰茶褐色	普通	石英、長石、片岩、黒色粒（粗い）	60%	図示上層、末野産
23	須恵高台埦	(14.1)	5.7	6.6	明黄灰色	普通	石英、チャート、長石、片岩	50%	図示中層、末野産
24	須恵高台埦	(14.0)	5.6	5.8	暗灰色	良好	石英、長石、黒色粒	70%	図示、末野産
25	須恵高台埦	-	《5.6》	7.2	暗橙褐色	やや悪	石英、長石、チャート、片岩（粗い）	図示 60%	図示上層、末野産
26	須恵高台埦	-	《5.2》	7.5	淡灰褐色	やや悪	石英、長石、片岩、褐色粒多	図示 60%	図示、磨滅あり、末野産
27	須恵高台埦	(15.0)	《6.6》	-	灰黒色	やや悪	石英、長石、片岩	図示 25%	図示上層、末野産
28	須恵高台埦	(14.2)	6.0	(6.9)	灰色	普通	石英、長石、片岩、黒色粒	図示 30%	中層＋下層、歪みあり、末野産
29	須恵高台埦	(14.4)	《4.4》	-	灰色	普通	石英、長石、片岩、黒色粒	図示 30%	中層、末野産
30	須恵高台埦	(14.0)	6.6	(6.1)	明灰色	普通	石英、長石、片岩、黒色粒	図示 25%	図示上層、末野産
31	須恵高台埦	-	《3.8》	(7.5)	灰黄赤色	酸化焔	石英、長石、黒色粒	図示 30%	図示、末野産
32	須恵高台埦	-	《3.1》	(6.7)	橙灰色	酸化焔	石英、長石、チャート、黒色粒	図示 25%	図示、末野産
33	須恵高台埦	-	《2.6》	(8.5)	明灰色	普通	長石、黒色粒	図示 20%	覆土、末野産
34	須恵高台埦	-	《2.7》	6.4	灰色	普通	石英、長石、片岩	図示 70%	図示、内面に重ね焼き痕、末野産
35	須恵高台埦	-	《3.3》	(6.6)	暗灰褐色	普通	石英、長石、チャート、片岩	図示 70%	図示、内面に重ね焼き痕、末野産
36	須恵高台埦	-	《2.9》	6.2	明灰色	普通	石英、長石、片岩	図示 70%	図示、末野産
37	須恵高台埦	-	《2.0》	(8.9)	灰褐色	不良	石英、長石、片岩	図示 40%	図示上層、磨滅あり、末野産
38	須恵蓋	(17.7)	(4.1)	-	黄灰色	不良	石英、長石、片岩、微砂粒	20%	上層、磨滅あり、末野産
39	須恵蓋	-	《3.6》	-	灰色	普通	石英、長石、片岩	図示 35%	図示、末野産
40	須恵蓋	(17.8)	《3.6》	-	明灰色	普通	石英、長石、チャート、片岩、黒色粒	図示 10%	上層、末野産
41	須恵蓋	鈕径3.5cm	-	-	灰赤褐色	普通	石英、長石、片岩	破片	上層、末野産
42	須恵蓋	鈕径3.2cm	-	-	灰色	良好	石英、長石、海綿骨針（精良）	破片	図示、南比企産
43	須恵蓋	鈕径3.0cm	-	-	明灰色	良好	石英、長石（精良）	破片	上層、南比企産？
44	須恵皿	12.4	2.1	5.9	暗灰色	普通	石英、長石、細礫（粗い）	70%	図示、底部回転糸切り未調整、末野産
45	須恵皿	12.9	2.6	5.6	明灰色	普通	長石、片岩、黒色粒（粗い）	90%	図示、底部回転糸切り未調整、末野産、歪みあり
46	須恵皿	11.7	2.5	5.6	灰～灰褐色	普通	石英、長石、片岩、黒色粒（粗い）	70%	覆土、底部回転糸切り未調整、内面に重ね焼き痕、末野産
47	須恵皿	(13.8)	2.6	(7.5)	明灰色	普通	石英、長石、黒色粒、細礫（粗い）	40%	図示上層、底部回転糸切り未調整、内面に火襷痕、末野産

1号井戸跡出土遺物観察表 (2)

48	緑釉段皿	15.8	2.8	7.4	明緑色	良好	精良	75%	図示、猿投K14号窯式、内面に三又トチン痕あり、磨滅あり
49	灰釉長頸瓶	-	-	-	淡灰色	良好・堅緻	精良	破片	上層、猿投産
50	青磁碗	-	-	-	淡緑色	良好	精良	破片	覆土、陰刻花文碗
51	須恵平瓶？	-	-	-	明灰色	普通	石英、長石、黒色粒	破片	下層、末野産
52	須恵長頸瓶	-	-	-	暗緑～淡灰色	良好・堅緻	黒色微粒子少量	破片	覆土、外面濃緑色の降灰釉、群馬産
53	須恵長頸瓶	-	《1.7》	(8.1)	灰白色	良好・堅緻	石英、長石、黒色粒	図示30%	覆土、内面に窯糞熔着
54	須恵長頸瓶	-	《8.7》	-	灰黄緑色	良好	長石、黒色粒	図示40%	図示、末野産
55	須恵甕	(20.0)	《6.8》	-	灰白色	良好・堅緻	長石、黒色粒	図示20%	図示、外面平行叩き、内面青海波叩き、群馬産か？
56	須恵甕	-	《10.8》	-	明灰色	良好	石英、長石、片岩、細礫	図示20%	図示、末野産
57	須恵甕	-	-	-	明灰色	普通	石英、長石	破片	図示、末野産
58	須恵甕	-	-	-	淡灰黄色	普通	石英、長石、黒色粒	破片	上層、末野産
59	須恵甕	-	-	-	明灰色	普通	石英、長石	破片	図示、口縁部櫛描き波状文、末野産
60	須恵甕	-	-	-	橙褐色	酸化焔	石英、長石、微砂粒	破片	上層、外面平行叩き、内面青海波叩き、末野産
61	須恵甕	-	-	-	灰色	良好	石英、長石	破片	図示、口縁部櫛描き波状文8条末野産
62	須恵甕	-	-	-	暗茶褐色	普通	石英、長石、片岩	破片	上層、外面平行叩き、内面あて具痕、末野産
63	須恵甕	-	-	-	淡灰橙色	良好・堅緻	長石、細礫	破片	図示、末野産
64	須恵甕	-	-	-	明灰色	普通	石英、長石、片岩	破片	図示、外面平行叩き、内面青海波叩き
65	須恵甕	-	-	-	明灰色	良好	石英、長石、片岩	破片	図示、外面平行叩き、内面青海波叩き、末野産
66	須恵甕	-	-	-	暗灰色	良好	石英、長石	破片	図示、外面平行叩き、内面青海波叩き後ナデ、末野産
67	須恵鉢	-	-	-	灰白色	不良	石英、赤色粒、微砂粒	図示20%	上層、磨滅あり、末野産
68	須恵甕	-	《1.7》	(18.7)	淡灰色	普通	石英、長石、黒色粒	図示45%	図示、底部無調整、末野産
69	須恵甕	-	《1.7》	(18.6)	明灰色	良好	石英、長石	図示20%	中層、底部無調整、末野産
70	甑	-	-	-	淡灰茶褐色	やや悪	石英、長石、微砂粒	破片	図示、取っ手、土師質
71	台付甕	(10.7)	《2.9》	-	暗橙褐色	普通	微砂粒	図示12%	上層
72	台付甕	(10.8)	《4.0》	-	暗橙褐色	普通	石英、パミス、微砂粒	図示20%	上層
73	甕	(20.7)	《5.8》	-	橙褐色	普通	石英、チャート、角閃石、微砂粒	図示15%	図示
74	甕	19.5	《8.0》	-	橙褐～暗赤褐色	普通	石英、角閃石、長石、パミス、微砂粒	図示60%	図示上層
75	甕	(20.6)	《5.0》	-	暗褐色	普通	石英、微砂粒	図示7%	上層
76	甕	-	-	-	灰黒色	普通	石英、長石	破片	図示、瓦質土器
77	土錘	長さ3.4cm	幅1.1cm	孔径0.4cm	重さ3.5g	普通	角閃石、微砂粒	60%	上層
78	土錘	長さ2.0cm	幅1.1cm	孔径0.4cm	重さ2.3g	普通	石英、角閃石、砂粒	30%	上層
79	磨痕石	長さ11.7cm	幅9.0cm	厚さ2.4cm	重さ301g	石材粘板岩		70%	図示、表裏磨耗



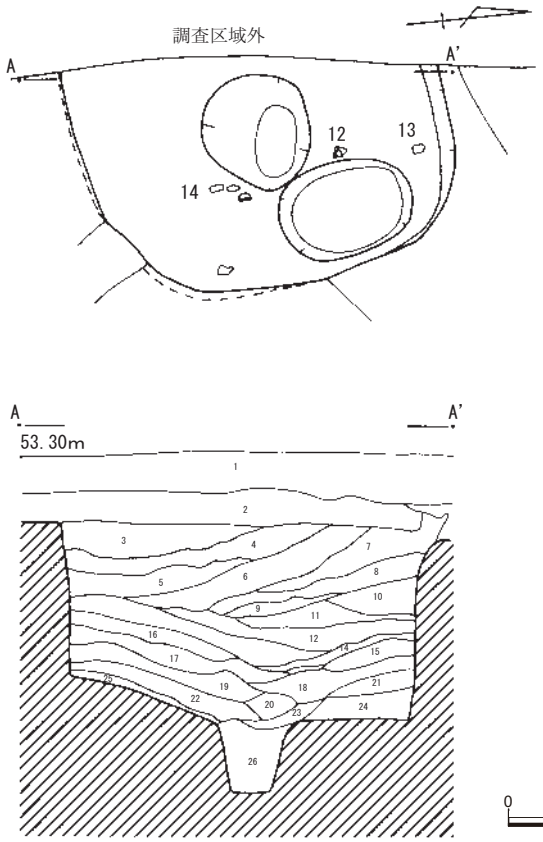
2号井戸跡土層説明
1　茶褐色土　　ローム粒微量含む。
2　暗茶褐色土　ローム粒微量含む。
3　暗茶褐色土　ローム粒・ロームブロック少量含む。
4　暗褐色土　　ローム粒微量含む。
5　茶褐色土
6　黒褐色土　　ローム粒微量含む。
7　黒褐色土　　ローム粒少量、ロームブロック微量含む。
8　茶褐色土　　ローム粒・ロームブロック少量含む。
9　茶褐色土　　ローム粒多量、ロームブロック微量含む。
10　黄色土　　ロームブロック主体。
11　黒褐色土　ローム粒・ロームブロック少量含む。
12　黒色土　　ローム粒微量含む。しまり弱い。
13　黄色土　　ローム粒主体。しまり弱い。

第36図　2号井戸跡実測図

第37図　２号井戸跡出土遺物実測図

２号井戸跡出土遺物観察表

番号	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	色　調	焼成	胎　　土	残存率	備　　考
1	小皿	11.4	3.1	6.7	橙褐色	普通	雲母、微砂粒	99%	図示、底部回転糸切り後かるいナデ、ロクロ土師器
2	須恵坏	-	《1.0》	(12.4)	明灰色	普通	石英、長石	図示 15%	覆土、底部全面回転篦ケズリ、末野産
3	須恵坏	-	《1.6》	(17.0)	明灰色	普通	石英、長石	図示 20%	覆土、底部全面回転篦ケズリ、末野産
4	須恵高台埦	-	《1.6》	-	淡灰色	不良	石英、長石、黒色粒	図示 15%	覆土、末野産
5	須恵長頸瓶	(13.8)	《7.9》	-	淡灰褐色	やや悪	石英、長石、片岩、黒色粒	図示 20%	覆土、磨滅あり、末野産
6	須恵甕	-	-	-	灰色	普通	石英、長石	破片	覆土、外面平行叩き、内面青海波叩き、末野産



1号特殊遺構土層説明

1	暗褐色土	A軽石少量、ローム粒微量含む。
2	黒褐色土	ローム粒・パミス微量含む。
3	暗茶褐色土	ローム粒少量、ロームブロック微量含む。
4	茶褐色土	ローム粒・ロームブロック少量含む。
5	茶褐色土	ローム粒・ロームブロック多量含む。
6	暗茶褐色土	ローム粒・ロームブロック微量含む。
7	暗茶褐色土	ローム粒少量、ロームブロック微量含む。
8	暗茶褐色土	ローム粒・ロームブロック少量含む。
9	黒褐色土	ローム粒少量含む。
10	黒褐色土	ローム粒・ロームブロック(5～10cm)多量含む。しまり、粘性強い。
11	黒色土	ローム粒多量、ロームブロック少量含む。しまり、粘性あり。
12	黒色土	ローム粒・ロームブロック・地山土多量含む。しまり、粘性あり。
13	黒褐色土	ローム粒・地山粘土粒・ロームブロック多量含む。しまり、粘性あり。
14	暗黄褐色土	ローム粒主体。ロームブロック少量含む。
15	暗茶褐色土	地山粘土粒多量、ローム粒・ロームブロック少量含む。しまり、粘性あり。
16	黒色土	ローム粒・地山粘土粒・ロームブロック少量含む。
17	黒褐色土	ローム粒・ロームブロック・地山粘土ブロック少量含む。
18	暗茶褐色土	地山粘土主体。ローム粒・ロームブロック微量含む。
19	暗茶褐色土	ローム粒多量、ロームブロック少量含む。
20	黄褐色土	ロームブロック主体。しまり強い。
21	暗黄褐色土	ローム粒主体。粘性あり。
22	黒色土	ローム粒・地山粘土粒・ロームブロック少量含む。
23	黒褐色土	地山粘土ブロック・ロームブロック多量含む。
24	黒褐色土	地山粘土ブロック・ロームブロック・ローム粒多量。しまり、粘性強い。
25	黒色土	ローム粒微量。
26	暗茶褐色土	地山粘土粒・粘土ブロック主体。

第38図　１号特殊遺構実測図

【１号溝】

Ａ－５グリッドからＤ－５グリッドにかけて南北に走行する。走行方位は、N-1°-E～N-9°-Eを示す。確認できた総延長は、13.62mである。幅は、109～193cmを測る。壁は角度をもって彫り込まれ、確認面からの深さは、12cmである。底面は平坦で、溝の断面は皿状を呈する。

遺物は、灰釉皿、すり鉢があった。

【１号土坑】

Ｂ－５グリッドに位置する。

平面形態は円形を呈し、直径は176cmである。底面は平坦で、深さは50cmである。

遺物は、須恵器坏が出土した。

【２号土坑】

Ｃ－５グリッドに位置する。

平面形態は円形を呈し、直径は122cmである。底面は平坦で、深さは18cmである。

遺物は、土師器・須恵器の小破片が出土したが、図示しえるものはなかった。

【３号土坑】

Ｃ－５グリッドに位置する。

平面形態は円形を呈し、直径は125cmである。底面は平坦で、深さは22cmである。

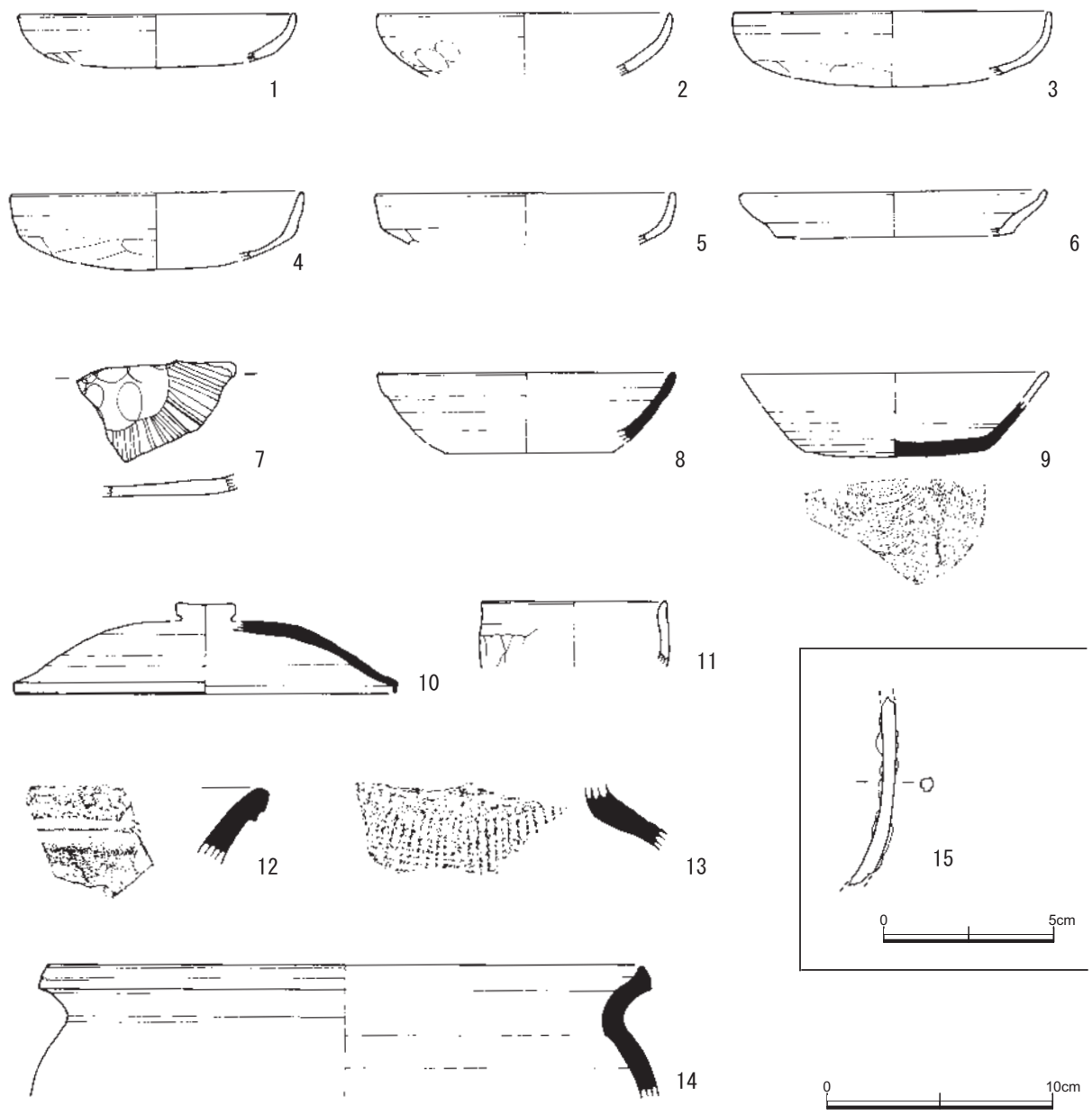
遺物は、土師器・須恵器の小破片が出土したが、図示しえるものはなかった。

【４号土坑】

Ｃ－３～Ｃ－４グリッドにかけて位置する。

平面形態は円形を呈し、直径は121cmである。底面は平坦で、深さは19cmである。

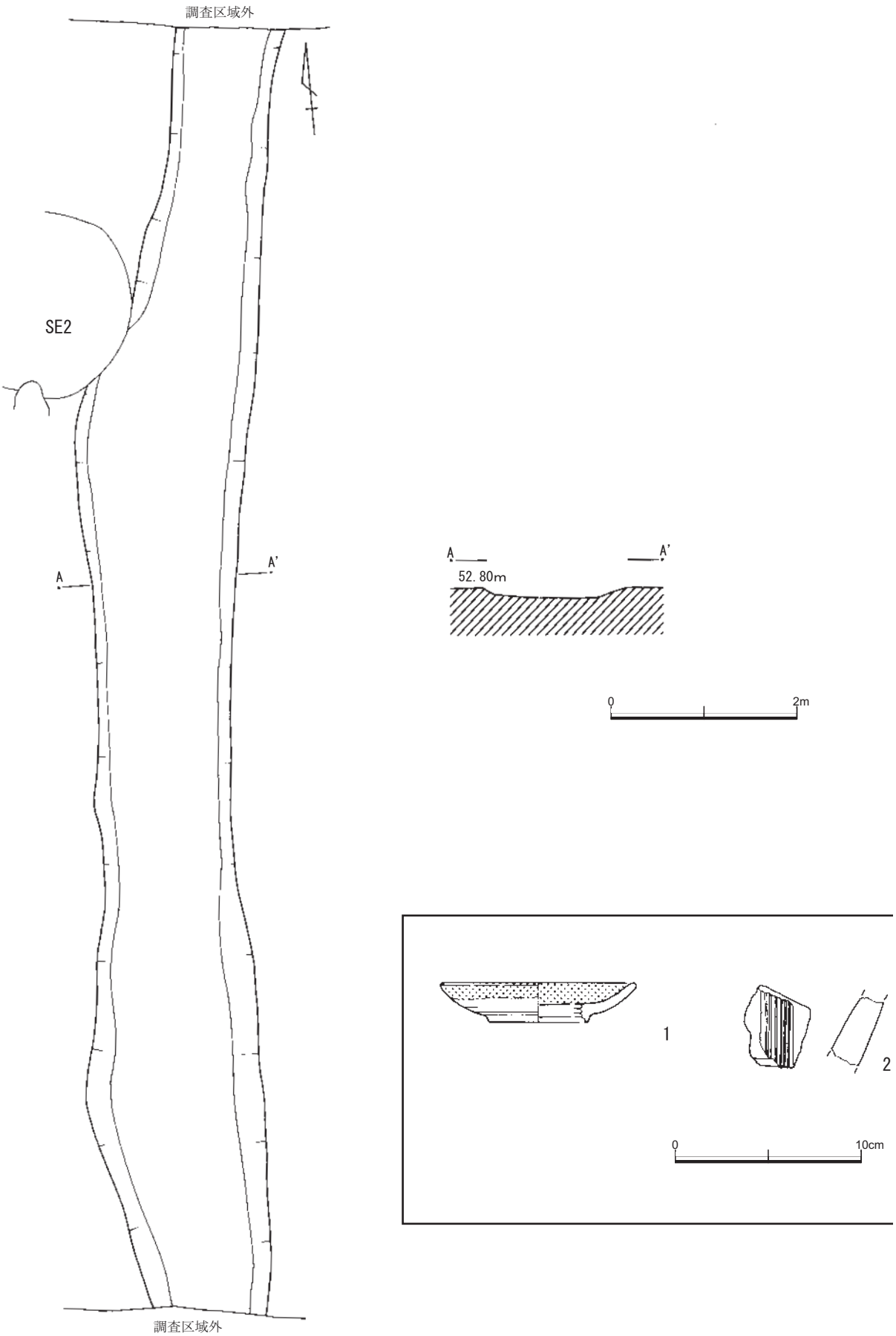
遺物は、須恵器の坏などがあった。



第39図　１号特殊遺構出土遺物実測図

１号特殊遺構出土遺物観察表

番号	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	色調	焼成	胎土	残存率	備考
1	坏	(12.0)	(2.3)	-	暗橙褐色	普通	石英、微砂粒	図示 15%	覆土、内面油脂状黒斑
2	坏	(12.7)	《2.7》	-	灰褐色	普通	石英、角閃石	図示 15%	覆土、内面油脂状黒斑少量
3	坏	(13.6)	(3.3)	-	橙褐色	普通	石英、角閃石、微砂粒	図示 25%	覆土
4	坏	(12.7)	(3.4)	-	にぶい橙褐色	普通	石英、雲母（精良）	図示 25%	覆土、内外面に油脂状黒斑少量
5	坏	(12.9)	《2.3》	-	暗赤褐色	普通	雲母、角閃石	図示 12%	覆土、内外面に油脂状黒斑
6	坏	(13.2)	(2.0)	(10.4)	灰橙褐色	良好	石英、角閃石	図示 10%	覆土
7	坏	-	-	-	暗赤褐色	良好	石英、角閃石。微砂粒	破片	覆土、内面放射状暗文＋螺旋暗文、在地産
8	須恵坏	(12.8)	《3.1》	-	淡灰褐色	やや悪	石英、赤色粒、白色粒	図示 10%	覆土、末野産
9	須恵坏	-	《2.4》	(7.9)	明灰色	普通	石英、長石、海綿骨針	図示 30%	覆土、底部周辺回転篦ケズリ、南比企産
10	須恵蓋	(16.5)	《3.2》	-	淡灰色	不良	石英、長石、片岩、黒色粒	図示 20%	覆土、磨滅あり、末野産
11	小型甕	(7.9)	《2.9》	-	淡橙色	普通	石英、角閃石	図示 15%	覆土
12	須恵甕	-	-	-	灰色	良好	石英、長石	破片	図示、末野産
13	須恵甕	-	-	-	灰黄褐色	不良	石英、長石、砂粒	破片	図示、外面平行叩き、磨滅著しい、末野産
14	須恵鉢	(25.9)	《5.9》	-	淡灰色	不良	石英、長石、片岩、黒色粒	図示 15%	覆土、磨滅あり、末野産
15	不明鉄製品	長さ5.5cm	幅0.4cm	重さ3.2g				破片	覆土、細い棒状、亀裂あり



第40図　１号溝跡及び出土遺物実測図

１号溝出土遺物観察表

番号	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	色　調	焼成	胎　　土	残存率	備　　考
1	灰釉皿	(10.0)	2.1	(5.2)	灰～緑灰色	良好	長石、黒色粒	図示 25%	覆土、瀬戸･美濃系陶器
2	すり鉢	-	-	-	灰橙褐色	酸化焔	石英、長石、雲母	破片	覆土、在地産

【５号土坑】

Ｂ－３グリッドに位置する。

平面形態は円形を呈し、直径は149cmである。底面はほぼ平坦で、深さは25cmである。

遺物は、土師器の坏、須恵器の坏･甕などがあった。

【６号土坑】

Ｂ－３～Ｃ－３グリッドにかけて位置する。

平面形態は円形を呈し、直径は125cmである。底面は平坦であるが、やや北寄りに直径59cmのピットが存在する。最深部で37cmを測る。

遺物は、土師器・須恵器の小破片が出土したが、図示しえるものはなかった。

【７号土坑】

Ｂ－１グリッド～Ｂ－２グリッドにかけて位置する。

平面形態は不整円形を呈し、直径は130cmである。底面は西壁で段差をもち、深さは最深部で48cmである。

遺物は、須恵器の坏・高台埦・甕などがあった。

【８号土坑】

Ｂ－２グリッドに位置する。５号住居跡と重複し、切り合い関係から本遺構の方が新しいことが判明している。

平面形態は楕円形を呈し、直径は81cm以上を測る。底面は若干の段差をもち、深さは最大25cmである。

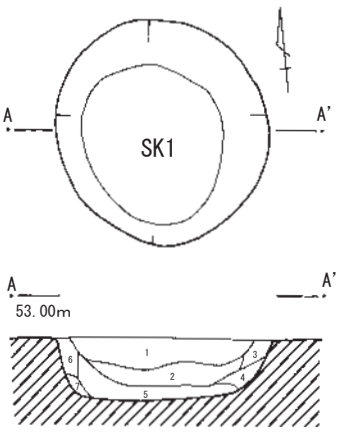
遺物は、土師器・須恵器の小破片が出土したが、図示しえるものはなかった。

【９号土坑】

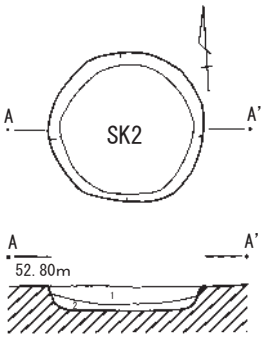
Ｂ－２グリッドに位置する。

平面形態は隅丸長方形を呈し、長軸106cm、短軸90cmを測る。底面はほぼ平坦で、深さは57cmである。

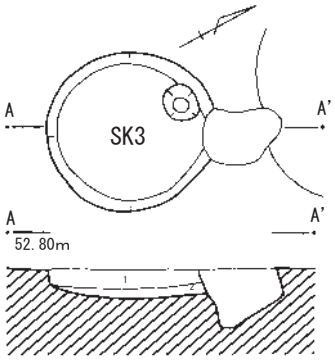
遺物は、土師器甕、須恵器坏などがあった。



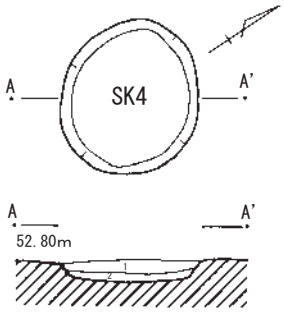
1号土坑土層説明
1　暗茶褐色土　ローム粒・パミス微量含む。
2　黒褐色土　ローム粒少量、ロームブロック微量含む。
3　茶褐色土　ローム粒多量、ロームブロック少量含む。
4　黒色土　ローム粒少量含む。
5　黒色土　ローム粒・ロームブロック微量含む。
6　黄褐色土　ローム粒主体。
7　黒色土　ローム粒・ロームブロック少量含む。



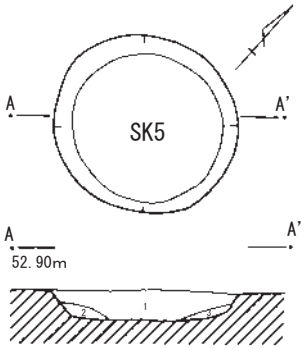
2号土坑土層説明
1　暗茶褐色土　ローム粒少量、ロームブロック微量含む。
2　黒褐色土　ローム粒微量含む。



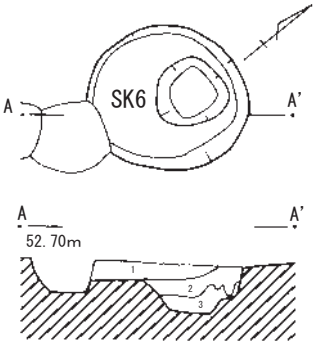
3号土坑土層説明
1　暗茶褐色土　ローム粒多量、ロームブロック微量含む。
2　黒褐色土　ローム粒・ロームブロック微量含む。



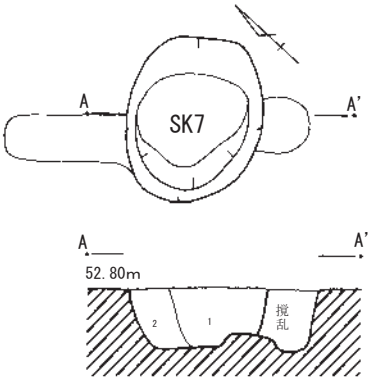
4号土坑土層説明
1　暗褐色土　ローム粒少量、焼土粒微量含む。しまり弱。
2　黒褐色土　ローム粒少量含む。しまり弱。



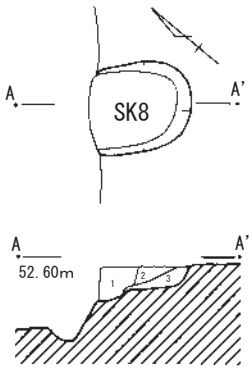
5号土坑土層説明
1　暗褐色土　ローム粒多量、ローム小ブロック微量含む。
2　黒褐色土　ローム粒・ローム小ブロック小量含む。



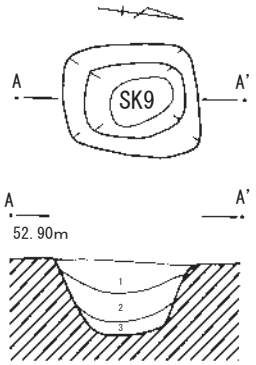
6号土坑土層説明
1　暗褐色土　ローム粒少量、ロームブロック微量含む。
2　暗茶褐色土　ローム粒・ロームブロック多量含む。
3　暗黄褐色土　ローム粒・ロームブロック多量含む。



7号土坑土層説明
1　暗茶褐色土　ローム粒少量、ロームブロック微量含む。
2　黒褐色土　ローム粒微量含む。

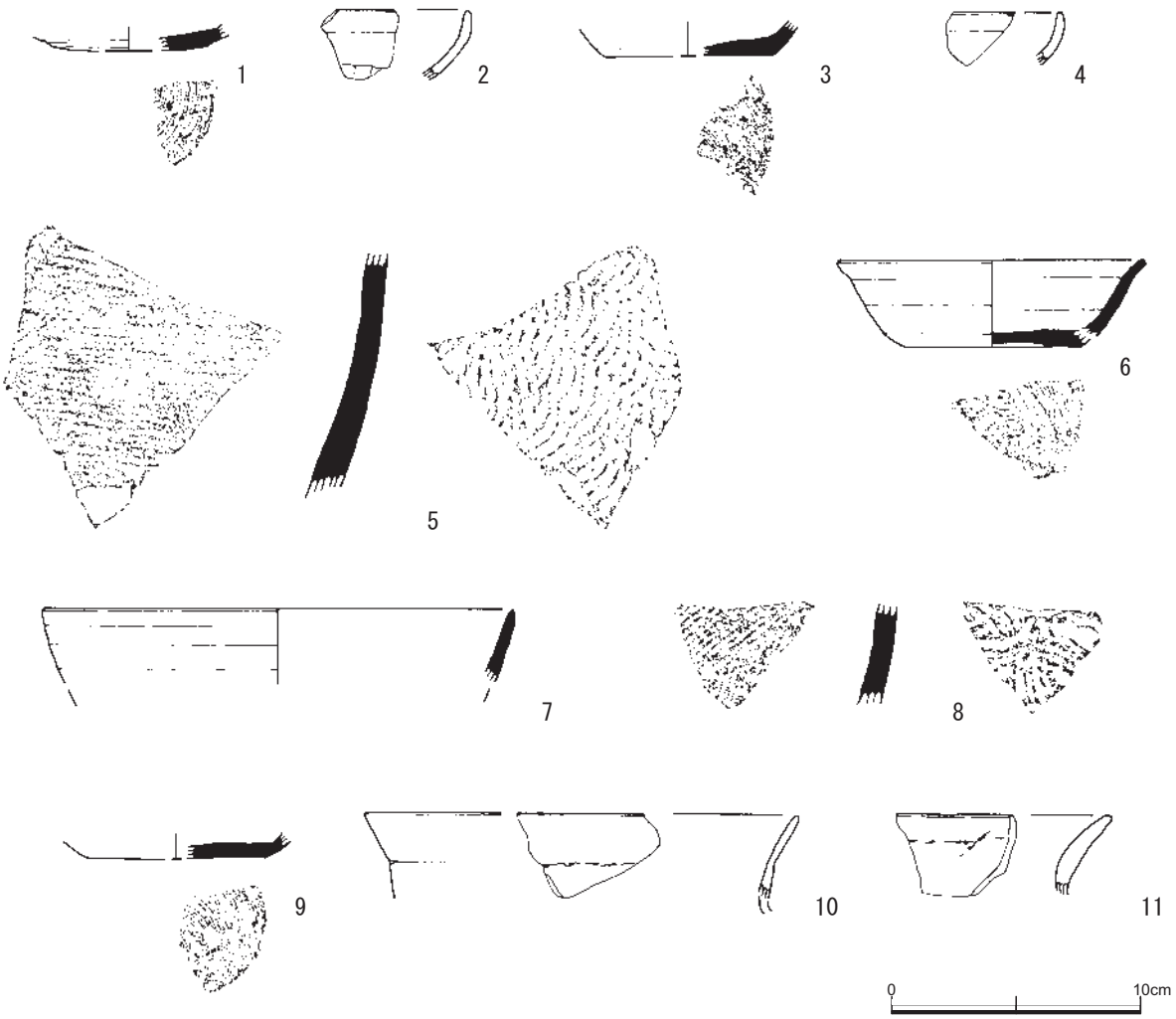


8号土坑土層説明
1　暗褐色土　ローム粒・白色粘土粒・焼土粒少量含む。
2　暗褐色土　ローム粒少量、白色粘土粒微量、焼土粒少量含む。
3　暗茶褐色土　ローム粒多量含む。



9号土坑土層説明
1　暗茶褐色土　ローム粒・ローム小ブロック少量含む。
2　暗褐色土　ローム粒・ローム小ブロック少量含む。

第41図　１～９号土坑実測図



第42図　土坑出土遺物実測図

土坑出土遺物観察表

番号	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	色　調	焼成	胎　　土	残存率	備　　考
1	須恵坏	-	《1.0》	(6.0)	灰色	普通	石英、長石、片岩、黒色粒	図示 10%	SK-1 覆土、底部回転糸切り未調整、末野産
2	坏	-	-	-	灰赤褐色	普通	石英、角閃石、微砂粒	破片	SK-5 覆土
3	須恵坏	-	《1.4》	(6.5)	灰褐色	やや悪	石英、長石	図示 25%	SK-5 覆土、底部回転糸切り未調整、末野産
4	須恵甕	-	-	-	明灰色	良好	長石、片岩	破片	SK-5 覆土、外面平行叩き、内面青海波叩き、末野産
5	坏	-	-	-	橙褐色	普通	石英、角閃石	破片	SK-6 覆土
6	須恵坏	(11.8)	(3.5)	(6.7)	明灰色	普通	石英、長石、片岩、黒色粒	図示 20%	SK-7 覆土、底部周辺手持ち篦ケズリ、末野産
7	須恵高台埦	(18.4)	《3.0》	-	淡灰色	やや悪	石英、長石、片岩、黒色粒	図示 10%	SK-7 覆土、末野産
8	須恵甕	-	-	-	灰色	良好	石英、長石（精良）	破片	SK-7 覆土、外面平行叩き、内面青海波叩き、末野産
9	須恵坏	-	《1.1》	(7.0)	明灰色	普通	石英、長石、海綿骨針	図示 25%	SK-9 覆土、底部回転糸切り未調整、南比企産
10	甕	(16.8)	《3.4》	-	暗橙褐色	普通	石英、長石、角閃石、微砂粒	図示 7%	SK-9 覆土、底部回転糸切り未調整、南比企産
11	甕	-	-	-	橙褐色	普通	石英、角閃石、チャート、微砂粒	破片	SK-9 覆土

Ⅳ　発掘調査のまとめ

熊野遺跡は、榛沢郡家正倉跡と推定される中宿遺跡の南方300mに位置する。現在までに167地点において発掘調査が実施されてきた。131次調査における１号・２号住居跡から出土した畿内産土師器の年代観から、遺跡の成立は７世紀第３四半期と考えられている。さらに、１次調査で検出された７間×３間の掘立柱建物跡をはじめとする大規模建物群等の存在から、榛沢初期評家の性格が与えられている。

さらに、熊野遺跡の北東に接して、８世紀前半に建立されたと考えられる岡廃寺が存在する。岡廃寺の伽藍配置等は確認されていないが、掘込地業を伴う基壇建物があったことは判明している。複弁八葉軒丸瓦をはじめとする丸瓦や平瓦が、多量に出土並びに採集されている。

さて、第161次調査地点は、この岡廃寺を方形に巡ると想定される区画溝の南西コーナーから250m南方に位置する。

比較的狭い調査範囲ではあるが、これまで述べてきたとおり竪穴住居跡６軒、掘立柱建物跡１棟、井戸跡２基、溝跡１条、性格不明土坑１基等、多種な遺構が検出された。

竪穴住居跡は、８世紀～ 10世紀の時期に該当する。各住居跡からは、土師器・須恵器を中心に多量の遺物が出土した。

特に、５号住居跡から銅製の帯金具が検出された。巡方と呼ばれる形式で、垂孔をもつものである。表金具・裏金具ともに遺残状態は、良好である。

熊野遺跡においては、現在までに17点（内出遺跡出土を含む）の帯金具が検出されている。これらを形式で分類すると、鋲具１点、巡方６点、丸鞆２点、蛇尾８点が見られる。いずれも、竪穴住居跡か掘立柱建物跡からの出土である。

郡庁が確認されていない状況下での帯金具の多量の出土は、郡司層の居宅を含んだ集落の性格を伺わせるものであろう。

掘立柱建物跡は、３間×２間の側柱建物である。隣接する57次・148次調査でも掘立柱建物跡が検出され、本遺構と主軸を揃える建物も２棟存在する。

井戸跡は２基が検出された。特に１号井戸は、確認面での径6.65mを測る大型のもので、漏斗状を呈する。調査区域外にかかるため底部までは至らなかったが、多量の遺物が出土した。特に、埋土からではあるが、緑釉段皿の出土は特筆される。焼成は良好で、内面に一段低くやや狭い平坦部を作り出し、比較的広くて直線的に外に開く縁を作り出す。三叉トチン痕がある。猿投黒笹14号窯式期に該当すると思われる。時期は９世紀前半であろうか。緑釉陶器の少ない熊野遺跡においては、復元資料ではあるが貴重品である。また、青磁埦が、小破片ではあるが出土している。

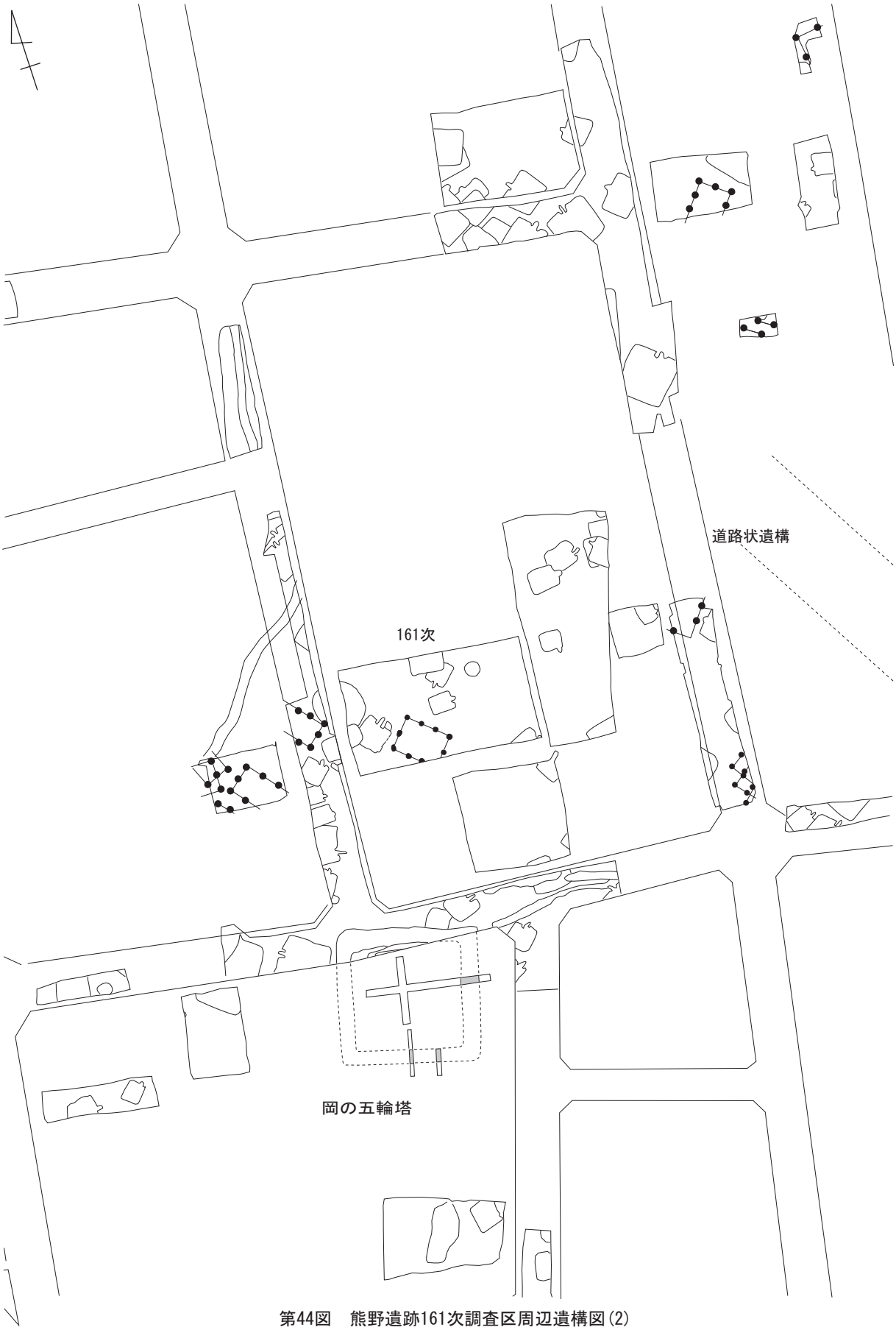
なお、この他にも灰釉長頸瓶（２号住居跡、１号井戸跡）、灰釉皿（１号溝）の出土が、特筆される。

性格不明土坑は、直径2.9m、深さ1.5mを測る規模の大きな遺構である。若干のオーバーハングが特徴的である。遺物は、土師器・須恵器の破片があるが、いずれも覆土からの出土である。時期を明確にしないが、覆土の状況から中世を遡るものではないと考えられる。

引用参考文献

○赤熊浩一2000「熊野/新田遺跡」埼玉県埋蔵文化財調査事業団
○富田和夫2002「熊野遺跡（ＡＣＤ区）」埼玉県埋蔵文化財調査事業団
○鳥羽政之2002「古代の役所」岡部町教育委員会
○鳥羽政之他1997「熊野遺跡Ⅰ」岡部町遺跡調査会
○鳥羽政之他2004「熊野遺跡Ⅲ」岡部町遺跡調査会

第43図　熊野遺跡161次調査区周辺遺構図(1)



第44図　熊野遺跡161次調査区周辺遺構図(2)

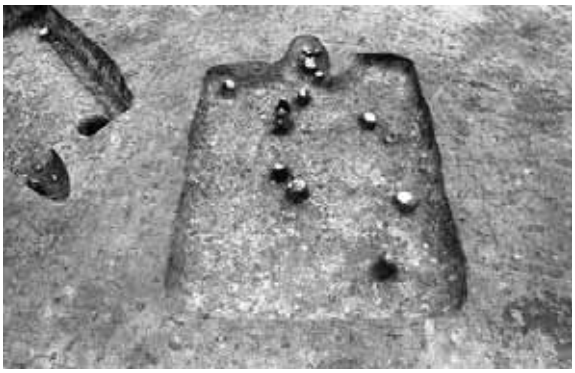
写 真 図 版

図版 1

全景（西方より）

全景（東方より）

1 号住居跡



2 号住居跡遺物出土状況

2 号住居跡

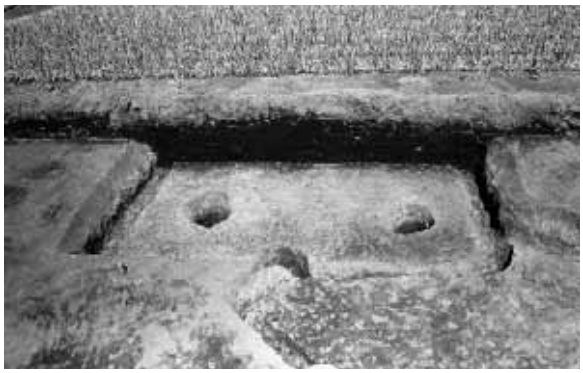
2 号住居跡カマド

3 ・ 4 号住居跡(1)

3 ・ 4 号住居跡(2)

図版 2

3 号住居跡カマド



4 号住居跡

5 号住居跡

5 号住居跡遺物出土状況

5 号住居跡カマド

5 号住居跡カマド遺物出土状況

7 号住居跡

7 号住居跡カマド

図版 3

1 号掘立柱建物跡（北東より）

1 号掘立柱建物跡（北西より）

1 号井戸跡

1 号井戸跡建物出土状況

2 号井戸跡

1 号溝と 2 号井戸跡

1 号特殊遺構

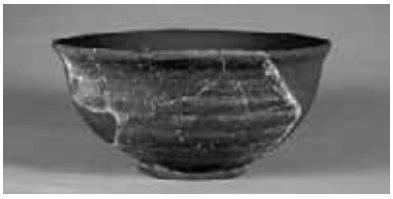
1 号特殊遺構掘下げ風景

図版 4

2 号住居跡No. 1

2 号住居跡No. 2

2 号住居跡No. 6


2 号住居跡No. 7

2 号住居跡No. 8

2 号住居跡No.11

3 号住居跡No.10

4 号住居跡No. 5

4 号住居跡No. 1

5 号住居跡No. 1

5 号住居跡No. 2

5 号住居跡No. 3

5 号住居跡No. 4

5 号住居跡No. 5

5 号住居跡No. 6

5 号住居跡No.11

図版 5

5 号住居跡No.12

5 号住居跡No.16

5 号住居跡No.17

5 号住居跡No.19

5 号住居跡No.23

5 号住居跡No.24

5 号住居跡No.27

5 号住居跡No.34

5 号住居跡No.35

5 号住居跡No.37

5 号住居跡No.39

5 号住居跡No.51

5 号住居跡No.52

5 号住居跡No.56

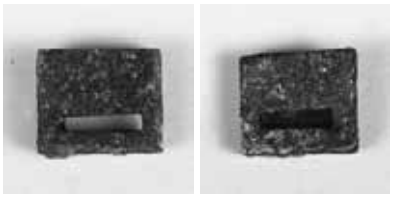
5 号住居跡No.61 ～ 63

5 号住居跡No.64

5 号住居跡No.65

5 号住居跡No.66

図版 6



5 号住居跡No.67

7 号住居跡No. 6

7 号住居跡No. 8

1 号井戸跡No. 1

1 号井戸跡No. 3

1 号井戸跡No. 4

1 号井戸跡No. 7

1 号井戸跡No.16

1 号井戸跡No.17

1 号井戸跡No.18

1 号井戸跡No.16

1 号井戸跡No.17

1 号井戸跡No.18

1 号井戸跡No.19

1 号井戸跡No.20

1 号井戸跡No.25

1 号井戸跡No.26

1 号井戸跡No.38

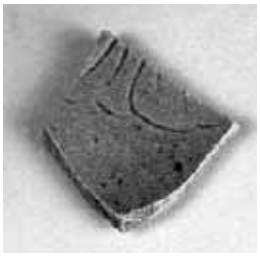
図版 7

1 号井戸跡No.39

1 号井戸跡No.45

1 号井戸跡No.46

1 号井戸跡No.48



1 号井戸跡No.50

2 号井戸跡No. 1

1 号溝跡No. 1

1 号特殊遺構No. 1

報告書抄録

ふりがな	くまのいせき
書　　名	熊野遺跡Ⅷ
副 書 名	
シリーズ	埼玉県深谷市埋蔵文化財発掘調査報告書
巻　　次	第106集
編著者名	宮本直樹、竹野谷俊夫
編集機関	深谷市教育委員会
所 在 地	〒366-0823　埼玉県深谷市本住町17-3番地　　TEL 048-572-9581
発 行 日	平成21年３月31日

所収遺跡（しょしゅういせき）	所在地（しょざいち）	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡					
熊野遺跡（くまのいせき） （161次調査）	埼玉県深谷市岡（さいたまけんふかやしおか） 字前屋敷（あざまえやしき）3047-5	11210	63-17	36° 12′ 39″	139° 14′ 32″	平成16年９月７日から 平成16年10月８日まで	875㎡	集合住宅

所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
熊野遺跡（くまのいせき） （161次調査）	集落跡 官衙跡	古墳時代 奈良～ 平安時代	竪穴住居跡 掘立柱建物跡 井戸跡 溝　跡 土　坑	土師器 須恵器 緑釉陶器 帯金具	５号竪穴住居跡から巡方が、１号井戸跡から緑釉段皿が出土した。

埼玉県深谷市埋蔵文化財発掘調査報告書　第106集

熊 野 遺 跡 Ⅷ

印　刷　　平成21年３月31日
発　行　　平成21年３月31日

発　　行　　埼 玉 県 深 谷 市 教 育 委 員 会